

国立国会図書館関西館  
開館20周年記念  
企画展示

# 万博<sup>7</sup> タイムトラベル



展示資料解説

本展示では、「2025年日本国際博覧会」（大阪・関西万博）が令和7年（2025年）に関西で開催されるのに合わせ、当館所蔵資料約150点を通して19世紀から始まった万国博覧会（万博）の歴史を辿り、その変遷と魅力を紹介します。

なお、本展示の構成にあたっては、佐野真由子氏「万国博覧会という、世界を把握する方法」（『万博学：万国博覧会という、世界を把握する方法』思文閣出版、2020所収）で示された万博史の新たな時代区分を参考にしました。佐野真由子氏からは展示内容についても多くのご助言を賜りました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

序章 .....	4
第1章 万博の黎明期（1851年～1927年） .....	6
コラム1：1893年シカゴ万博における「女性館」と日本の展示 .....	18
コラム2：万博を見た・書いた作家たち .....	24
第2章 世界大戦を挟んで（1928年～1960年） .....	29
コラム3：植民地主義と博覧会 .....	36
第3章 戦後の社会から未来へ（1960年～） .....	46
コラム4：国際博覧会条約の改正 .....	49
第4章 万博研究 .....	65

## 凡例

- ・展示の順番にしたがって資料の情報を掲載しています。
- ・書誌情報は「タイトル / 編著者名等, 出版者, 出版年」の順に記載しています。  
【     】内は資料の請求記号です。

<デジタル化済の資料を閲覧するには>

- ・国立国会図書館オンライン（<https://ndlonline.ndl.go.jp/>）で、ご覧になりたい資料の請求記号やタイトル等により資料検索を行い、検索結果の画面で「デジタル」のボタンをクリックしてください。
- ・または、国立国会図書館デジタルコレクション（<https://dl.ndl.go.jp/>）で、ご覧になりたい資料の請求記号やタイトル等により資料検索を行ってください。
- ・各資料の公開範囲は、書誌事項の後ろに付した以下の表示をご確認ください。

### インターネット公開

インターネット上で閲覧が可能な資料です。ご自身の端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）等で閲覧できます。

### 館内／図書館・個人送信

国立国会図書館の館内の端末、および図書館向けデジタル化資料送信サービス<sup>1</sup>に参加している図書館の端末で閲覧が可能な資料です。個人向けデジタル化資料送信サービス<sup>2</sup>をご利用の方は、ご自身の端末（スマートフォン、タブレット、パソコン）等でも閲覧できます。

### 国立国会図書館内限定

国立国会図書館の館内の端末でのみ閲覧が可能な資料です。

---

<sup>1</sup> 詳細については当館ホームページをご参照ください。

[https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital\\_transmission/index.html](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/index.html)

<sup>2</sup> 詳細については当館ホームページをご参照ください。

[https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital\\_transmission/individuals\\_index.html](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html)

## 序章

ヨーロッパでは、万国博覧会（万博）が誕生する 19 世紀中葉よりもかなり前から、自国産業の発展などを目的として、一国内での博覧会又はそれに類する催しが行われていた。

日本でも、博覧会としての形が整うのは明治時代になってからであるが、江戸時代には、博覧会の原型とも呼べる催しが行われていた。

序章では、この展示の導入として、こうした万博前史とも言えるトピックをパネルにより概説する。併せて、次章の理解の一助となるよう、万博の制度的枠組みの中心をなす博覧会国際事務局（BIE）及び国際博覧会条約についても簡単に紹介する。

## 国際博覧会

国際博覧会とは、国際博覧会条約に基づき、博覧会国際事務局（BIE）の承認の下で開催される博覧会である。国際博覧会は、登録博覧会（登録博）と認定博覧会（認定博）\*に大別される。

登録博は 5 年ごとに開催され、開催期間は最長で 6 か月である。

認定博は、2 つの登録博の中間期間に 1 つ開催できる。具体例として、2010 年に中国で開催された上海万博（登録博）と 2015 年にイタリアで開催されたミラノ万博（登録博）との間に、2012 年に韓国で開催された麗水（ヨス）万博（認定博）がある。開催期間は最長で 3 か月までで、開催規模にも制限がある。

\*国際博覧会条約では、国際園芸家協会が承認した園芸博覧会等も認定博覧会という位置付けにできることが定められているが、この展示で「認定博覧会」と言う場合、特に断りがない限りそれらは含まない。

## 博覧会の起源

近代的な博覧会の原型は、17 世紀から 18 世紀にかけて国内博覧会として形成された。フランスでは、1667 年にルーブル宮で美術品の展覧会が開催されている。1789 年の革命後には、優れた製品には審査により賞を授与するといった近代博覧会の体系が成立した。イギリスにおいては、1760 年にイギリス王立美術協会が主催する全国美術展が始まり、カタログ販売や入場券制度が始まった。産業革命の進んだイギリスでは、ヴィクトリア女王の夫であるアルバート公が工業製品の国内博覧会開催を推進し、その成功を梃子（てこ）にして国際的な博覧会の開催を志向したことが、世界初の万博である 1851 年ロンドン万国博覧会へとつながった。

## 博覧会国際事務局（BIE）

国際博覧会条約の成立を機に 1928 年に発足した、国際博覧会の常設の事務局。万博が国際博覧会条約にのっとって開催されるように監督するために設立され、参加申請の受付や承認などを行う国際機関。国際法上、国際博覧会（万博）を名乗ることができるのは、博覧会国際事務局によって承認された博覧会のみである。パリに本部を置く。日本が国際博覧会条約を批准したのは 1964 年である。2022 年秋現在、170 か国が加盟している。

## 日本の博覧会

日本における博覧会の原型は、1751 年（宝暦元年）頃から開かれるようになった「本草会」「薬品会」「物産会」などと呼ばれる催しだとされている。1871 年（明治 4 年）の「京都博覧会」が、民間人が主催して開かれた日本で初めての博覧会であり、これ以降、各地で小博覧会が開催されることとなった。

また、殖産興業をスローガンに掲げる明治政府は、1877 年（明治 10 年）に第 1 回の内国勸業博覧会を東京の上野公園で開催した。政府による内国勸業博覧会は、その後、1903 年の第 5 回まで開催されている。



1877 年内国勸業博覧会の開会式の様子（錦絵）

『内国勸業博覧会開場御式の図』楊洲橋本直義.明治 10【寄別 7-5-1-6】

## 第1章 万博の黎明期（1851年～1927年）

この章では、1851年の第1回ロンドン万博から、1928年の国際博覧会条約成立より前に開催された万博に関する資料を紹介する。取り上げるのは、博覧会国際事務局（BIE）のウェブサイト「World Expo」として挙げられている19回の万博のうちの14回である。

18世紀から19世紀前半にかけて、イギリスやフランスをはじめとするヨーロッパ諸国では、産業の発達に伴い、国内向けの展覧会・博覧会が数多く開催されていた。そうした流れの中でイギリスにより初めて開催された万博は、経済発展、自由貿易の進展、ナショナリズムの隆盛等も背景に参加国・開催国が次第に広がり、規模も大きなものとなっていった。

国際的な制度が確立されるようになるまで、現在の万博の基礎を形作った黎明（れいめい）期にどのような万博が開催されていたのか、当時の報告書や報道等を通して振り返る。

### 1851年 ロンドン万博

1851年に初の万博として「The Great Exhibition of the Works of Industry of All Nations」がロンドンで開催された。参加国は、ヨーロッパ諸国とその植民地、アメリカ、カナダなどで、現在からすると「All Nations」というには偏りが否めないが、当時の「世界」のあり方が表れているともいえる。

シンボルとなったのは、造園家ジョセフ・パクストンが設計し、ガラスと鉄骨で作られたメインの展示会場「水晶宮」。会期の途中から入場料が金・土曜日以外は1シリングとなり、地方からも汽車に乗って多くの人々が訪れた。展示品では、機械類、中でも農機具が注目を集めたほか、イギリスの新聞『Illustrated London News』の輪転機を用いた印刷の実演等が人気を呼んだ。

#### 1. Palais de Cristal : Journal Illustré de l'Exposition de 1851 et du Progrès des Arts Industriels. 1号-23号 1851年5月7日-10月11日 / Joseph Thomas 【Z51-P785】

1851年ロンドン万博の期間中に週刊で発行されたフランス語のジャーナル。フランスの利益となる他国の展示物の紹介や、世界の芸術や技術においてフランスが占める位置を産業界に知らせること等を刊行の使命に掲げている。展示資料は1851年5月7日刊行分から10月11日刊行分までの合冊版で、イラストとともに展示品や会場の様子が記録されている。展示ページは、展示会場である水晶宮の外観（左

ページ) と内観 (右ページ)。

## 2. 水晶宮物語：ロンドン万国博覧会 1851 / 松村昌家 著. リプロポート，昭和 61(1986)年【D7-74】

国立国会図書館内限定

ヴィクトリア朝の成り立ちや 1851 年ロンドン万博開催に向けた動きから水晶宮焼失までをまとめた資料。水晶宮建設までの紆余曲折、会期中に来場者でにぎわう様子などが詳しく記されている。水晶宮は、万博終了後、取り壊しを惜しむ声により 1854 年にロンドン郊外に移設され、1936 年に火災で焼失するまで、娯楽・憩いの場、軍事訓練の場などとして使われた。著者は、水晶宮をヴィクトリア朝の最盛期到来を示したものと位置づけ、その消滅を、ヴィクトリア朝の栄光の終焉を象徴するものとしている。

### 1855 年 パリ万博

1851 年ロンドン万博に刺激を受けて「Exposition Universelle」として開かれたフランス初の万博。1853 年に勃発したクリミア戦争の影響やセーヌ県知事のオスマンによるパリ市街改革による人手不足等で開催準備が難航したものの、ナポレオン三世の支援を受けて実現した。万博を主導したミシェル・シュヴァリエらはサン・シモン主義者であり、万物を体系的に秩序立てて、あるべき近代産業社会の姿を示す啓蒙（けいもう）の場として万博を活用しようとしていたとされる。

各国の展示品が集められたメインの展示会場「産業館」のほか、美術品展示のための専用の展示館等も設けられた。開催地パリの政治・経済・文化の優位性を国際社会にアピールする場となった。

## 3. L'illustration. 26 巻(645 号)-26 巻(670 号) 1855 年 7 月-12 月 / [Dubochet] 【Z55-D65】

1843 年から 1944 年まで刊行されたフランスの絵入りの週刊ジャーナル。『The Illustrated London News』（1842 年刊行のイギリスの絵入りジャーナル。展示資料 6）に触発されて創刊された。1855 年パリ万博開催期間中は、会場の様子や展示物について報じる記事が掲載されている。展示箇所は、フランス植民地の物産の展示会場（左ページ）と、金製品の展示場所（右ページ）。展示箇所以外では、地球の自転を証明する「フーコーの振り子」の公開実験が同万博会場でも行われたことなどが記されている。

## 1862年 ロンドン万博

「International Exhibition of 1862」という名称で開催された、イギリスで2度目の万博。ヨーロッパや北米のほか、アフリカや中東、日本も含むアジア等の41か国へ参加招請を行い、参加国の地域的な拡大が図られた。

1850年代のインドの反乱、クリミア戦争、南北戦争等を背景として、国家主義が前面に出た万博であり、展示には軍需産業の比重の高まりや発展も表れていた。また、この万博では、実現はしなかったものの、構想段階では、国別展示を行わず、各国政府からの出品物は主催者が分類に沿って整理し展示するという方法が検討されていた。日本からは、駐日イギリス公使ラザフォード・オールコックが収集した日本の工芸品、版画等が出展された。

4. 遣外使節日記纂輯 第三 (日本史籍協会叢書) / 大塚武松 編. 日本史籍協会, 昭和 3-5(1928-1930)年【210.593-0927k】 [インターネット公開](#)
5. 遣外使節日記纂輯 第二 (日本史籍協会叢書) / 大塚武松 編. 日本史籍協会, 昭和 3-5(1928-1930)年【210.593-0927k】 [インターネット公開](#)

幕末遣外使節による日記をまとめた資料。1862年ロンドン万博にも立ち寄っており、当時の新型大砲であるアームストロング砲、蒸気を用いた紡績機等についての言及がある。出品されていた日本の工芸品に対して、展示資料4収録の淵辺徳蔵による「欧行日記」では、「骨董店の如く雑具を集し」「粗物のみを出せし」と否定的である一方、展示資料5収録の市川渡による「尾蠅欧行漫録」では、漆器の精巧さは他国の展示品よりも秀でていたという肯定的な評価が示されている。

6. **The Illustrated London News Reprint Ed 40 (通号 1138-1151) / Kashiwashobo Pub. Co., 1997【Z99-973】**

1842年にイギリスで創刊された絵入り新聞の復刻版。展示資料には1862年4月5日号から6月28日号までが収録されている。1862年ロンドン万博の開催期間中には、万博の様子を報じる記事も掲載されており、5月10日号では特集が組まれている。展示箇所は、開会式でのケンブリッジ公爵による開会宣言の絵。ページの左隅には、日本からの使節と思われる和装の人物が数人描かれている。ちなみに、5月24日号には、会場を訪れた日本使節団の絵が「この展覧会の常連」という説明とともに掲載されている。

7. **The International Exhibition of 1862, London : official illustrated catalogue & Cassell's illustrated family paper exhibitor volume 1**



**(The illustrated catalogue of the industrial department, British division vol. 1) / supervised and introduced (in Japanese) by Masaie Matsumura. Edition Synapse, 2014 【D7-B46】**

1862年ロンドン万博の公式図解カタログ。展示している第1巻には、1（鉱業・採石・冶金・鉱業製品）から9（農業用機械）までの分類に属するイギリスからの展示品が掲載されている。そのほか、これまでに開催された博覧会、1862年ロンドン万博の概要・建物・資金提供者等がまとめられている。なお、第4巻では、駐日イギリス公使ラザフォード・オールコックが収集した日本製品の展示品名623件を確認できる。

### 1867年 パリ万博

メインの展示会場は楕円（だえん）形で、同心円上に同じ部門、放射状に各国の展示品が陳列された。この1867年パリ万博で初めて、メイン会場のほかに各国がパビリオンを建設し展示を行うという形式が採られ、後の万博に引き継がれた。会場の敷地面積が拡大していく端緒ともいえる。

各国料理のレストランの設置やコンサートの開催等、万博に娯楽的要素を持ち込んだこと、産業技術だけでなく社会道徳問題にも枠を広げ、文化的イベントへの転換の契機となったことなども後の万博に影響を及ぼしたとされている。また、電信機、海底ケーブル、発電機等の展示が行われ、蒸気から電気への動力の移行を予感させる万博でもあった。

### 8. 花のパリへ少年使節：慶応三年パリ万国博奮闘記 / 高橋邦太郎 著. 三修社, 昭和54(1979)年【D7-52】

国立国会図書館内限定

1867年パリ万博に江戸幕府の使節として派遣された徳川昭武の万博参列過程をまとめた資料。1970年大阪万博の際に刊行された『チョンマゲ大使海を行く』の新版。徳川昭武は、江戸幕府第15代将軍徳川慶喜の弟であり、当時14歳。ナポレオン三世の皇太子が満11歳であったことから、同年代の公子がふさわしいだろうということで、将軍の名代として派遣することが決定された。出品物の選定や送付、現地の様子、日本の近代化への影響、帰還の経緯、後日談等が、物語調の文章を交えつつ分かりやすく書かれている。

## 9. 渋沢栄一滞仏日記 / 大塚武松 編. 日本史籍協会, 昭和3(1928)年【64-247】

インターネット公開

渋沢栄一が幕府使節団として 1867 年パリ万博を訪れた際の日記。横浜港を出港した 1867 年 2 月 15 日から 12 月 17 日までを記録した「航西日記」等が収録されている。展示箇所には万博会場内の各国の配置が書かれている。この箇所に挙げられている国名や日本の位置に当時の国力の分布が表れているという後世の研究の指摘もある。後に続く箇所では展示品について記されており、各国の出品物を見れば、その国の風俗、人の智愚が推察できると述べられている。

## 10. Reports of the United States commissioners to the Paris Universal Exposition, 1867 / edited by William P. Blake. Government Printing Office, 1870 【48-72】

アメリカ政府による 1867 年パリ万博の報告書。全 6 巻。展示している第 3 巻では、工業機械や精密機器等がまとめられている。展示箇所右ページの図は 1866 年に登場したヴィルヘルム・ホルツの静電発電機で、報告書作成当時は既にアメリカやヨーロッパで広く使用されていたという。そのほか、報告書の中では発電機の歴史や動向を紹介しており、クロムウェル・ヴァーリーが発明したもの（1862 年ロンドン万博で展示）、アウグスト・テプラーが発明したもの等も記載されている。

### 1873 年 ウィーン万博

オーストリア=ハンガリー帝国のフランツ・ヨーゼフ皇帝の即位 25 周年を記念して開催された。ウィーンの都市改造に大きな影響を与えた万博であり、開催に合わせてドナウ運河の改造工事が行われた。

メインの会場は長さ約 850 メートルあり、オーストリアより東に位置する国は建物の中央より東側、西に位置する国は西側と、地球上の配置（メルカトル図法による）に沿って展示区画が割り当てられた。展示では、電力で動く工作機械が特に注目されたという。また、この万博以降、特許に関する国際的取決めの必要性が検討されるようになり、会期中には工業所有権の国際会議が開催された。

## 11. Notice sur l'Empire du Japon et sur sa participation à l'Exposition universelle de Vienne, 1873 / C.Lévy, 1873 【A-74】

澳国博覧会事務局（1873 年ウィーン万博の事務局）により、ウィーン万博を訪れる外国人向けに作成された資料。日本の参加の経緯や出品物、澳国博覧会事務局の名

簿といった万博関連の情報のほか、日本の歴史や地理もまとめられている。1878年パリ万博の際も同様の資料『Le Japon à l'Exposition universelle de 1878』（当館請求記号【Aa-81】）が刊行されており、当時あまり知られていなかった日本について正確な情報を伝達する必要性が意識されていたことがうかがわれる。

## 12. 昨夢録 / 平山成信 著. 平山成信, 大正 14(1925)年【15-429】

インターネット公開

1873年ウィーン万博に当時20歳で事務官として赴いた平山成信による回顧録。前書きには、ウィーン万博参加50周年を記念し1923年に東京で博覧会を開催する計画があったものの、関東大震災により中止となったことが記されている。その記念博覧会の主催団体である日本産業協会からの要望を受けて作成された本書では、参加前後の回顧録、航海日記、ウィーン万博の概要や各国の展示物、ドナウ川の工事を始めとした見聞雑記等がまとめられており、当時の様子をうかがい知ることができる。

## 13. 澳国博覧会参同記要 / 田中芳男, 平山成信 編. 森山春雍, 明治 30(1897)年【74-201】

インターネット公開

1873年ウィーン万博への参加までの経緯や事務関係の記録、参加報告書等をまとめた資料。明治政府として初めて参加した博覧会であり、参加目的として、海外向けの日本のアピールと海外の技術の採用が挙げられている。この万博への参加が帝国博物館の設立につながったとされており、展示資料には「博物館設立の報告書」も含まれている。この万博のために政府が設置した博覧会事務局は、1875年に内務省の所管となり、博物館に改称されている（現在の東京国立博物館の前身）。また、「下編 技術伝習」には、万博会場での展示や現地視察等で得た知見が記載されている。

## 14. 特命全権大使米欧回覧実記 第5篇 欧羅巴大洲ノ部下 / 久米邦武 編. 博聞社, 明治 11(1878)年【34-88】

インターネット公開

岩倉使節団が欧米を視察した際の記録を、書記官であった久米邦武がまとめた資料。使節団は1871年11月10日に日本を出発し、1873年9月13日までアメリカや欧州各国を訪問した。第5編には、欧州諸国を視察した際の記録のほか、欧州の民族・政治・商業・地理、帰国の際の航海日記等が収録されており、1873年ウィーン万博の記録も含まれている。会場の様子や各国の出品物を詳しく記しており、日本の出

品物については、欧州の人にとって見慣れないもので、好評を得ていたとされている。展示箇所の左ページは会場となったプラター公園の絵。

## 1876年 フィラデルフィア万博

アメリカの独立100周年を記念して開催された万博。監督機関として、知事の推薦、大統領の指名を受けた委員で構成する「百周年委員会」が設置されたが、連邦政府は資金について責任を負わず、民間主導の資金調達が行われた。約8万平方メートル（甲子園球場のほぼ2倍）のメインホールと機械ホールが主会場となった。

メインホールでは、当時のアメリカの中心的トピックであった鉱工業と教育関係の展示が行われた。機械ホールでは、巨大な蒸気機関、ベルの電話機、タイプライター一等が展示された。大部分はアメリカの出品物で、新興国アメリカの産業、潜在的能力を世界にアピールする場となった。

## 15. 一千八百七十六年費府博覧会分類略表 / 米国博覧会事務局, [明治9(1876)年]【特 60-767】

インターネット公開

1876年フィラデルフィア万博で出品物の分類に用いられた分類表の日本語版。この万博では、出品物を「鉱業及び冶金術」、「製造物」、「教育及び知学」、「美術」、「機械」、「農業」、「園芸」に分けたうえで、図書館資料の分類法「デューイ十進分類法」\*のモデルとなった論理的体系を用いて細分化している。ただし、基本的に十進分類法にのっとった番号付与が行われているが、「製造物」は項目が多いためか変則的になっている。

\*アメリカ出身のメルヴィル・デューイが考案した図書館資料の分類法。0から9までのアラビア数字を組み合わせた分類法であり、日本の図書館で広く用いられている日本十進分類法にも影響を及ぼした。フィラデルフィア万博の開催年と同じ1876年に初版が公開された。

## 16. Visitor's guide to the Centennial Exhibition and Philadelphia, May 10th to November 10th, 1876 : the only guide-book sold on the exhibition grounds / J.B. Lippincott, c1875【D7-A42】

フィラデルフィア万博の会場で販売されていたガイドであることがタイトルから推察される。同万博の概要や会場内の建物のほか、宿泊施設、郵便局、電報サービスの場所や料金、図書館の所在等、旅行者向けの情報もコンパクトに記載されている。

## 17. U.S. International Exhibition, 1876 : origin, rise & progress of the work, description of buildings, etc / [s.n.], 1875 【K-23】

1876年フィラデルフィア万博開催に向けた取組状況をまとめた報告書。明治維新後に民部省や外務省に勤めた塩田三郎から東京図書館（国立国会図書館の源流の一つ）が寄贈を受けたものである。開催経緯、準備状況、会場計画や建物、運営組織、表彰の仕組み、会計等について記されている。図表も多く含まれ、展示箇所の左ページでは、これまでの万博会場と今次の会場の面積を比較した様子が示されている。一番外側の枠が1876年フィラデルフィア万博の会場面積（予定）であり、1851年ロンドン万博以降次第に拡大している様子が分かる。

### 1878年 パリ万博

フランス政府が、普仏戦争の敗戦からの復興、第三共和政の定着等を国内外に示すことを目的として開催した。

エレベーターの動力や産業館の空調等で水を大規模に活用したことなどがこの万博の特徴として挙げられる。タイプライター、ミシン、蓄音機等、比較的小型の機械が関心を集めたという。また、会期中に「著作権保護に関する会議」等の国際会議が開催され、国際会議と万博の同時開催という形式は、1889年パリ万博やそれ以降にも引き継がれた。

## 18. 仏蘭西巴里府万国大博覧会報告書 1 / 仏国博覧会事務局, 明治13(1880)年 【35-36】

インターネット公開

1878年パリ万博への参加に際して組織された仏国博覧会事務局による報告書。開会式の様子、入場規則、出品物の審査・表彰、日本の参加体制・費用・出品物、他国の出品物等がまとめられている。事務局副総裁の松方正義は、日本からの出品物について、陶器、銅器、漆器、彫刻等は他国から賞賛を集めたものの、日用品の出品が少なかった点が遺憾であったとしている。また、展示資料11で触れた日本の概略をまとめた外国向け資料は、2,500部刷られ、現地で販売されたほか、フランスの万博事務局、他国の事務官等に配布されたことが記されている。2巻には、農商務省の職制や決算表、会場の様子を記した絵や図面等が収録されている。

## 19. L'Exposition universelle de 1878 : illustrée : quatre-vingt-sept belles gravures sur bois / texte descriptif par S. de Vandières. C. Lévy, 1879 【YP51-A227】

1878年パリ万博の会場の様子を描いた版画が多数収められている。同万博の概要、会場内の施設のほか、運営や建築の中心的人物の紹介もなされている。大気球による遊覧、「自由の女神」の頭部の展示、会場内で電球の点灯等が行われていたことが分かる。

### 1880年 メルボルン万博

1880年代になると、植民地争奪戦が激しさを増していった。この情勢を反映し、この時期には多くの国・地域が植民地の製品・市場をアピールし、新たな交易ルートの開発等を目指して国際博覧会を開催した。この1880年メルボルン万博もそのうちの一つである。

## 20. 明治十三年メルボルン万国博覧会報告 / 農商務省, 明治 15(1882)年 【23-209】

インターネット公開

1880年メルボルン万博の報告書。日本の参加決定までの経緯、出品物、受賞した出品物のほか、開場式の様子、日本とオーストラリアの通商の概況なども紹介されている。当時オーストラリアはイギリスの植民地で、複数の地域に分かれており、メルボルンはそのうちのヴィクトリア植民地の首都だった。緒言の中では、植民地政府の誕生が1851年という「新国」で、かつ人口25万人ほどのメルボルンで万博を開催できた理由として、人々が意欲的で進取的な空気があったこと、貿易が盛んであったことが挙げられている。

### 1889年 パリ万博

フランス革命から100周年に当たる年に開催された万博。そのため、開催の趣旨は19世紀の経済発展をたたえることとされたものの、一部の欧州国家は参加に積極的でなかったという。

現在でもパリのシンボルとして親しまれるエッフェル塔が建設されたのがこの万博である。当初は芸術家や作家47人から建設への抗議文が出るなど賛否両論あったが、実際に万博が始まると多くの人々がエッフェル塔を目当てに訪れたという。

大規模な照明が採り入れられ、夜間開場や噴水と照明による夜間のショーが行われた。分類にも「電気」が現れ、新たな動力として存在感を増していることがうかが

える。エジプトの市街地での人々の様子等植民地の風俗を再現する展示も行われた。

## 21. 仏国巴里万国大博覧会報告書 / [農商務省], 明治 23(1890)年【特 70-462】

インターネット公開

1889年パリ万博の参加報告書。開催までの経緯、参加国、会場、経費のほか、諸外国の出品物に対する論評、日本からの参加の概要等が記載されている。日本のアピールや貿易促進を参加の目的として挙げ、そのためには、欧州諸国に倣った形ではなく、「純然たる日本風の家屋を建設し以て我出品物の展示本館」とすることで注目を集めることが有効であるとしている。

## 22. 仏国百年祭万国大博覧会之記 / 宇賀寿 訳. 宇賀寿, 明治 23(1890)年【特 29-500】

インターネット公開

フランス人のカルダンという人物の日記の翻訳版。1889年パリ万博が記録されている。1889年5月5日の記念式典の様子、式典時に発生したカルノー大統領の狙撃事件及びその犯人と警吏の間で交わされた問答の内容、式典での大統領の演説、5月6日の開会式の様子等が記述されている。万博初日は、陸軍省が出品した大小の新しい砲に足を止める人が多かったこと、レストランが混み合い座席確保が難しかったことなどが分かる。展示箇所左ページには夜間開場の様子が記されている。

## 1893年 シカゴ万博

コロンブスのアメリカ大陸「発見」400年を記念して開催された万博。高架電車が導入されたほか、7万の白熱灯と5,000のアーケ灯が会場内を照らすなど、エネルギーとしての電力の可能性・意義が示された。

主要な展示館が集まった区画は、新古典主義様式で統一された白一色の建物が立ち並ぶ外見から「ホワイト・シティ」と呼ばれた。一方、「ミッドウェイ・プレザンス」という地区には、高さ約80メートルの観覧車「フェリスの車輪」や民族舞踊といった娯楽的要素が集められた。また、出展品の分類に当時新興の学問である「考古学・人類学」が登場した。

## 23. ホワイト・シティの幻影：シカゴ万国博覧会とアメリカ的想像力 / 大井浩二 著. 研究社出版, 平成 5(1993)年【GH94-E4】

1893年シカゴ万博におけるホワイト・シティの意義を再検討したもの。詩人、建築家、ジャーナリスト、歴史家、新聞記者等の手による様々なテキストを基に、シカ

ゴ万博に対する賛否両面からの反応を分析した上で、ホワイト・シティは、1890年に地理的・農業的フロンティアが消滅したアメリカにおいて、それまでの金メッキ時代に終止符を打ち、新たな都市的・産業的フロンティアが登場する革新主義時代の幕開けを予告する存在であったとしている。

## 24. 閣竜世界博覧会美術品画譜 第2集 / 久保田米僊 画. 大倉書店, 明治26-27(1892-1893)年【15-250】

インターネット公開

日本画家の久保田米僊による水彩画集。美術家の参考に供することを目的として、1893年シカゴ万博の様子を描き留めた絵や、出品された美術品の模写がまとめられている。展示ページは「工藝館」の「日本物品陳列場」を描いたもので、様々な国籍の来場者でにぎわっていることが分かる。

## 1900年 パリ万博

パリで開かれた5回目の万博。19世紀を締めくくり20世紀を展望するものとして、大規模な万博となった。特徴として、アール・ヌーヴォーの隆盛、植民地展示の拡大、商業的性格と娯楽的要素の強化等が挙げられる。

会場内の移動手段として、高架鉄道や全長3キロメートルほどの動く歩道等が設けられた。レントゲン撮影機、新たに発明された映画装置、実験段階の飛行機等が展示されたほか、高さ約100メートルの大観覧車が建設された。華やかな展示館、異国情緒漂う外国館大通り等が相まって「万博の中の万博」とも呼ばれ、芸術の都、流行の源パリの評価を高めることとなった。入場者は5,000万人を超え、これはその後半世紀近く、万博入場者数の最多記録であった。

## 25. 巴里万国大博覧会に対する方針 / 金子堅太郎 著. 臨時博覧会事務局, 明治30(1897)年【40-477】

インターネット公開

1900年パリ万博の際に日本の事務官長を務めた金子堅太郎が、同万博に関する日本の方針を記した資料。対外貿易の拡張を万博参加の主目的とした上で、貿易品・美術品・美術工芸品・機械工具に分けて出品の方針を示している。緒言では、日清戦争以降、日本の国力が過大に評価されつつある中、名誉の失墜を防ぎ、更に名声を高めるため、そして不平等条約改正の動きの中で日本の生産力を他国に示すため、万博参加に当たっては注意が必要であると記されている。この万博の出品方針について、万博を「技術を競う場」として捉えている様子が表れていると指摘する後世の研究もある。



## 26. L'Exposition du siècle / A. Quantin . Le Monde moderne, [1900?] 【D7-A13】

1900年パリ万博の各展示会場及び区画を絵図や写真入りで解説した資料。過去にフランスで開催された万博を振り返り、今次の万博の開催経緯・概要・分類についてまとめた後、会場内の各区画の出品物等を解説している。展示箇所右ページでは日本のパビリオンが紹介されている。セーヌ川左岸の各国パビリオンが連なる「La rue des Nations」のほかに、トロカデロでも各国の植民地、ロシア、中国、日本等による展示が行われた。日本の展示については、特に美術品が高く評価されている。

## 27. 千九百年巴里万国博覧会臨時博覧会事務局報告 上 / 農商務省, 明治 35(1902)年 【28-167】

インターネット公開

1900年パリ万博への参加のために組織された臨時博覧会事務局による報告書。1901年の事務局解散に伴い作成が開始された。上巻では、万博開催までの経緯、運営組織、財源、関連規則、会場内の建物とその配置、附属事業として開催された国際会議、日本からの参加に関する事務的な内容等が詳しくまとめられており、会場写真のほか、建物の寸法・間取り図も多数収録している。19世紀の締めくくりという記念的な万博だったことから、フランスとの関係の良し悪しによらず各国が積極的に参加したとして、「今回の如く各国の協和を得たるもの蓋し稀なり」と記されている。

## コラム 1 : 1893 年シカゴ万博における「女性館」と日本の展示

1893 年、コロンブスによる新大陸「発見」400 周年を記念し、アメリカ合衆国・シカゴで万国博覧会が開催された。この万博で特筆すべきは、女性が主体となって企画・運営し、各国の女性が手がけた芸術作品等の展示を行う「女性館」が、万博史上初めて独立したパビリオンとして設置されたことだろう。B・パーマーが委員長を務める「女性管理委員会」が設置され、女性館の企画・運営に当たった。女性館の建物の設計（S・ヘイデンによる）や壁面装飾なども含めて女性たちが手掛けたことは、当時としては画期的な出来事だった。

日本では、国威発揚と貿易の拡大を主な目的に掲げて大規模な予算を計上し、国を挙げてシカゴ万博に参加した。「臨時博覧会事務局」が組織され、その副総裁に就任した九鬼隆一が中心となって、万博出展を推し進めた。シカゴ万博では「美術館」など分野ごとのパビリオンに日本のブースを設けたほか、独自のパビリオン「鳳凰殿」（設計：久留正道）も建設された。また、前述の女性館へも、毛利安子公爵夫人を委員長とする「米国大博覧会日本婦人委員会」を中心として出展が行われた。

### 28. 臨時博覧会事務局報告附属図 / 臨時博覧会事務局, 明治 28(1895)年 【9-118】

インターネット公開

シカゴ万博出展に当たって、当時の農商務大臣を総裁とする「臨時博覧会事務局」が組織され、国を挙げて万国博覧会出展が推進された。展示資料は、万博終了後の報告書（本体は『臨時博覧会事務局報告』当館請求記号【77-78】）に添付された附属図をまとめた資料。日本の出展の様様を中心に、記録写真や図版などが豊富に含まれ、万博の雰囲気がよく伝わってくる。

### 29. メアリー・カサット展 = Mary Cassatt retrospective / メアリー・カサット [画], 横浜美術館, 京都国立近代美術館, NHK, NHK プロモーション 編. NHK, 平成 28(2016)年【KC16-L1960】

メアリー・カサット（1844-1926）は印象派を代表するアメリカの女性画家で、近年再評価が進んでいる。展示資料は、2016 年に横浜美術館と京都国立近代美術館で開催された回顧展の図録。カサットと万博のつながりとしては、シカゴ万博の「女性館」のための壁画を制作したことが挙げられる。カサットが制作した壁画「現代の女性」は、M・F・マクモニーズの「原始の女性」と対をなすように女性館の「栄誉のホール」に展示された。

### **30. The book of the fair : an historical and descriptive presentation of the world's science, art, and industry, as viewed through the Columbian exposition at Chicago in 1893 … / Hubert Howe Bancroft. The Bancroft Co., 1893 【YP51-A642】**

購読制で販売された、全 25 分冊からなるシカゴ万博の大判記録集。豊富な写真とともに会場の様子が子細に記録されており、あたかも当時の会場を訪問したような気分になれる。この記録集に、メアリー・カサットの壁画「現代の女性」の写真が残されていることが注目される。「女性館」のためにカサットとマクモニーズが制作した壁画の実物は、いずれも現在では所在不明となっており、この記録集は貴重な記録といえる。

### **31. Advertisements of Japanese representations in the World's Columbian Exposition / Koronbia Hakurankai Kizi Kyokai, 1893 【B-119】**

シカゴ万博における日本の展示・出品に関する外国向け宣伝資料を集めた資料。多くのページが多色刷りとなっていて鮮やかである。展示ページは、シカゴ万博で日本が建設した「鳳凰殿」のイメージ図（設計：久留正道）。建物は3棟からなり、左から藤原時代の様式、江戸時代の様式、室町時代の様式となっている。日本から派遣された職人によって、シカゴ万博の会場中に設けられた「森の島」に建設された。

### **32. Shepp's World's fair photographed / Shepp, D. B, Shepp, James W. Hegger, [c1893] 【Sf-8】**

予約制で販売された、シカゴ万博運営委員会公認の写真集。全 530 ページほどの浩瀚（こうかん）な写真集である。展示ページの写真は、鳳凰殿の近くに建てられ、訪問客に茶を提供していた「茶店」の展示風景。関係者の姿が写っており、ながら記念写真のようにも見える。解説では、日本人を「東洋のフランス人」と表現するなど、当時は国際的に知られていなかった日本がアメリカ人の目にどのように映っていたかを垣間見ることができる。

### 33. The Hôôden(Phoenix hall); : an illustrated description of the buildings erected by the Japanese government at the World's Columbian Exposition, Jackson Park, Chicago / Kakuzô Okakura. K.Ogawa, 1893 【B-132】

「鳳凰殿」の建物の解説と、鳳凰殿の中で展示された美術品の目録を収めた英文パンフレット。解説を執筆したのは、当時東京美術学校校長であった岡倉覚三（天心）である。東京美術学校（現在の東京藝術大学）は、鳳凰殿の室内装飾を委嘱されており、学校の関係者の手になる美術作品が鳳凰殿内を彩っていた。

### 34. 海を渡った明治の美術：再見!1893 年シカゴ・コロンブス世界博覧会特別展観 / 東京国立博物館 編. 東京国立博物館, 平成 9(1997)年 【K16-G142】

シカゴ万博における日本の出展品の中には、万博終了後、臨時博覧会事務局から帝国博物館（現在の東京国立博物館）に引き渡されたものが多くある。展示資料は、1997 年に東京国立博物館で開催されたシカゴ万博の回顧展の図録。出展品は、絵画、彫刻、染織、漆工、陶磁、七宝、金工の各ジャンルにわたっており、当時の美術の粋が集められて万博会場で展示されたことがうかがえる。

### 35. 日本の婦人 / 米国博覧会日本婦人会 編. 大日本図書, 明治 28(1895)年 【45-92】

インターネット公開

「日本女性とは何か」を説明するパンフレットで、シカゴ万博に際して組織された「米国大博覧会日本婦人会」のメンバーによって作成された。シカゴ万博開催中に英語版（当館請求記号【B-149】）が頒布され、万博閉会後に日本語版が刊行された。内容は、「文学上の婦人。国文学の起原」「宗教上の婦人」「産業に於ける婦人」「日本婦人の芸術」「現今の婦人。慈善及び教育」など 8 篇からなり、日本女性の多様な側面の紹介に努めている。

### 1904 年 セントルイス万博

ルイジアナ買収 100 周年を記念して開催された万博。それまで拡大を続けていた会場面積が極大に達した。全体で約 500 ヘクタールと、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが約 10 個入る広さであり、会場内の建物数は 1,576、会場内を走る鉄道の長さは計 21 キロメートル、道路は計 72 キロメートルに及んだ。人が見て回れる広さを凌駕（りょうが）しており、気温によっては体調を崩す人が多く、試作品として出品されていた救急自動車が活躍し、各都市に広まるきっかけとなったという。

展示品の分類は、教育が最初に置かれ、美術・機械・電力が続き、当時のアメリカにおける啓蒙主義の隆盛や重点課題、20世紀初頭の工業の状況が表れている。自動車、航空技術、無線通信が目玉であり、気象観測用気球の飛行実験、セントルイスーシカゴ間の無線通信実験が行われた。

### **36. Louisiana purchase exposition, St. Louis in 1904 : a collection of official guidebooks and miscellaneous publications volume 1 / reprint supervised by Koji Oi. Eureka Press, 2009 【D7-B18】**

1904年セントルイス万博の公式ガイドと関連出版物をまとめた資料で、関西学院大学名誉教授の大井浩二氏による復刻。第1巻には開催計画、展示施設の解説、展示物の種類の解説、会期中のイベント、来場者への推奨事項等をまとめた公式ガイドと、芸術部門の出品物カタログが収められている。別冊の日本語解説では、フィリピンの諸部族を「陳列」する「フィリピン居住区」が特に来場者の目を引いたこと、ルイジアナ購入100周年だけでなく、1898年米西戦争勝利によるフィリピン獲得を祝う万博でもあったこと等が記されている。

### **37. 聖路易万国博覧会日本出品協会報告 / 小倉良 編. 聖路易万国博覧会日本出品協会, 明治39(1906)年 【40-807】**

インターネット公開

1904年セントルイス万博への参加に際して組織された聖路易万国博覧会日本出品協会による報告書。同協会は、日本全国からの出品を統括し、調整を行うことを目的としていた。万博開催の概要、同協会の成立や内国・外国事務、万博参加後の残務、会計等がまとめられている。協会長の大谷嘉兵衛による緒言では、日露戦争に向かっていく当時の気運の中で、国を挙げて軍事に取り組んでいた一方で、商工業者は、「平和の戦場」である万博会場で列国に一歩も譲らないという気概の下、平時よりも積極的に出品する者が多かったと述べられている。展示ページは会場全景図である。

### **1905年 リエージュ万博**

ベルギー独立75周年を記念して開催された万博。目的として、ベルギーの進歩と国際社会への影響を示すこと、自国の産業発展や利益増進、外国産業の進歩を自国民に紹介すること等が挙げられていた。

### 38. 千九百五年利栄寿万国博覧会報告 / 利栄寿万国博覧会日本出品協会、 明治 40(1907)年【74-347】

インターネット公開

1905 年のリエージュ万博への日本の参加に関する、リエージュ万国博覧会日本出品協会による報告書。1903 年にベルギー政府から参加の要請があった際、明治政府は 1904 年のセントルイス万博に参加を決めたこと、及び日露関係の緊迫を理由に参加を断った。しかし、再度参加要請を受け、政府としては参加しないものの、国内の有志団体による参加に十分な助成を行うこととした。この取りまとめを行う組織として、農商務大臣の認可を受けて設立されたのが出品協会である。報告書には、万博の規則や運営組織などのほか、日本からの出品状況、外国の新聞等による報道内容、他国の参加・出品状況等がまとめられている。

#### 1915 年 サンフランシスコ万博

パナマ運河開通（1914 年）と、太平洋の「発見」から 400 年を記念した万博。また、1906 年の大地震で被害を受けたサンフランシスコの復興を示すことも目的の一つだった。第一次世界大戦中に開催され、当時アメリカはまだ参戦していなかったものの入場者数はあまり伸びず、1,900 万人に届かなかった。

大陸間横断電話回線の展示や、ヘンリー・フォードの組立ラインが出品され、実際に 10 分に 1 台自動車が生産される様子の実演が行われるなど、工業国としてのアメリカの力がアピールされた。

古象牙色を基調に淡い紅色、深緑色、深青色等 8 色に彩られた会場内は「虹の市街」と称され、呼び物として手細工のガラスの宝石が使われた「宝石の塔」が建設された。電光装飾と光線の科学に新時代を画すべきとして、会場内では間接照明などが用いられた。

### 39. 博覧会協会桑港万国博覧会事務報告 / 中里一郎 編. 博覧会協会, 大 正 5(1916) 年【326-166】

インターネット公開

1915 年サンフランシスコ万博の報告書。日本は、米国との和親を増進する機会としてこの万博への参加を決めたことが記されている。会場の様子や出品物について写真付で紹介されているほか、日本からの出品に関する事務手続、博覧会終了後の残務、日本からの出品物に対する評価がまとめられている。展示ページでは「運輸館」を紹介している。飛行機について世界各国のあらゆる種類を集め、大規模な展示を行うことを予定していたが、欧州における戦乱により中止になったと記述されており、展示内容に当時の世界情勢が影響している様子がうかがえる。

#### 40. 巴奈馬太平洋万国大博覧会 第 1 / 新世界新聞編輯局 編. 新世界新聞社, 大正 2-3(1913-1914)年【321-121】

インターネット公開

新世界新聞社がアメリカ西部に在留する日本人を対象として編纂した、1915 年サンフランシスコ万博に関連する記事をまとめた資料。第 1 巻の大部分の記事は 1912 年 8 月 31 日までに書かれたもので、翌 1913 年には第 2 巻が刊行されている。開催地決定の過程、それまでの万博の歴史、パナマ運河の意義・運営・影響、現地の概要や産業、1915 年サンフランシスコ万博に対する日本内外の名士の意見、日米間の条約・国交、日本からの万博参加等について扱っている。展示箇所には当時の日米関係が記されており、移民問題、学童問題の発生、日米戦争を取り沙汰する説の流布等が言及されている。

#### 1912 年 幻の日本大博覧会

日本で最初に万博が開催されたのは 1970 年であるが、それ以前にも開催に向けた動きが何度かあった。その最初期のものが「日本大博覧会」である。期間は 1912 年 4 月 1 日から 10 月 31 日まで、会場は東京の青山から代々木一帯を予定していた。日本の経済状況、開催地において交通・衛生等諸般の設備が完成していないことなどを理由に、「日本大博覧会」という内国博覧会的な名称が用いられたが、実質的には万国博覧会のようなものとするを期していた。

着々と準備が進められていたものの、1908 年に発足した桂内閣は、日露戦争の反動や鉄道国有法による私営鉄道買収等での財政逼迫を理由に開催を 1917 年に延期し、更に 1912 年には無期延期が決定された。

#### 41. 日本大博覧会経営ノ方針：日本大博覧会会長子爵金子堅太郎君演説集 / 日本大博覧会事務局, 明治 41(1908)年【63-26】

インターネット公開

日本大博覧会の開催について金子堅太郎が各所で行った演説をまとめた資料。演説の中では、博覧会は国家の成長に必要不可欠であり、20 世紀の万国博覧会は「経済的研究」「世界的教育」「国家的祭礼」「外交的会同」の目的を持っていると論じている。また、開催都市での経済活性化に加え、交通・下水・教育の整備、商業の振興がもたらされ、東京が「世界を達観する眼光あるもの」と言われるように開催したいとの意気込みが述べられている。

**42. Grand Exhibition of Japan 1912 : rules and regulations of the Grand Exhibition of Japan 1912 and special laws relating thereto / 日本大博覧會事務局, 1908 【Ba-201】** 館内／図書館・個人送信

**43. Grand Exhibition of Japan 1912 : classification of exhibits / 日本大博覧會事務局, 1908 【Ba-200】** 館内／図書館・個人送信

日本大博覧会の規則（展示資料 42）と展示品の分類（展示資料 43）。実際には開催されなかったものの、実施に向けて具体的に検討・準備が進められていたことが分かる。

## コラム 2 : 万博を見た・書いた作家たち

1851年にロンドンで開催された史上初の万国博覧会を端緒に、万国博覧会は、古今東西、多くの文人たちを魅了し、あるいは現代文明を象徴する現象と見られて批判の対象となってきた。本コラムでは、その一例として、イギリスの作家シャーロット・ブロンテ、ロシアの作家フョードル・ドストエフスキー、アメリカの詩人ウォルト・ホイットマン、ドイツの批評家ヴァルター・ベンヤミン、日本の夏目漱石、永井荷風が万博について述べた言葉を紹介する。ここで挙げた作家たちは残念ながら同じ万博を訪れることはなかったが、万博を通じた作家たちの遭遇を想像してみるのも面白い。

### **44. The Brontë letters / Spark, Muriel. Nevill, [1954] 【928.23-S736b】**

いずれも作家としてイギリス文学史に足跡を遺したシャーロット、エミリー、アンのブロンテ姉妹のうち、小説『ジェイン・エア』（1847）で有名なシャーロット・ブロンテ（1816-1855）は、1851年にロンドンを訪問し、私淑する作家ウィリアム・サッカレーの講演会に参加するとともに、当時開かれていたロンドン万博を訪問し、その印象を書簡で記している。引用文中の「虚栄の市」とは、サッカレーの作品タイトルでもある。

### **45. Polnoe sobranie sochineniï F. M. Dostoevskago Ūbileynoe 6. izd [Полное собрание сочинений Ф. М. Достоевского. Юбилейное 6-ое изд.] Т. 3 / Тип. P. F. Pantel'ieva [Тип. П. Ф. Пантел'ева], 1904-1906 【891.73-D7423-3】**

ロシアの作家フョードル・ドストエフスキー（1821-1881）は、1862年に初めてヨーロッパを旅行し、2か月半をかけて14都市を周遊した。その時の印象を基に書か



れたのが、エッセイ風の小文「冬に記す夏の印象」(1863)である。当時万博が開催されていたロンドンにも8日間滞在し、作家なりの視点から万博を通して現代文明を批判している。展示資料は、1904から1906年にかけてロシアで刊行された豪華版全集(セルゲイ・ブルガーコフ編)。

**46. Leaves of grass / Whitman Walt, Holloway, Emory (ed.).  
Doubleday, Page & Company, 1924 【247-11】**

アメリカの詩人ウォルト・ホイットマン(1819-1892)の代表的詩集『草の葉』は改訂を重ねており、いくつかのバージョンが存在するが、1872年の版から同詩集に収められたのが「博覧会の歌(Song of Exposition)」という詩である。もともとはニューヨーク全米工業博覧会(1871)のために依頼を受けて詠まれ、同博覧会の会場で詩人本人が朗読した。その後、フィラデルフィア万博(1876)でも披露されている。

**47. Gesammelte Schriften 2. Aufl / Walter Benjamin. Suhrkamp,  
1978- 【KS392-A3】**

20世紀前半のドイツで多彩な執筆活動を展開した文芸批評家・哲学者のヴァルター・ベンヤミン(1892-1940)は、遺稿となった草稿集『パサーージュ論』において、現代文明を象徴する37のキーワード・テーマを設定して、様々な文献からの引用を収集し、考察を重ねた。そこには、「博覧会、広告、グランヴィル」というテーマも含まれ、消費文化を象徴する現象としての万博も中心的なテーマの一つとなっている。

**48. 漱石全集 第19巻 / 夏目金之助. 岩波書店, 平成7(1995)年【KH426-E32】**

夏目漱石(1867-1916)は、1900年から1903年までイギリスに留学しているが、その道中、フランスに上陸してパリ万博を訪問した。栄華を極めるパリの様子を「夏夜ノ銀座ノ景色ヲ五十倍位立派ニシタル者ナリ」と記しているのも面白い。引用文中の「渡邊氏」は、文部書記官を務めた渡辺董之助のこと。このほか、パリでは、後にフランス大使となる安達峰一郎やドイツ文学者の藤代禎輔らと行動を共にしている。

## 49. あめりか物語 / 永井荷風 (壮吉). 博文館, 明治 41(1908)年【17-330】

インターネット公開

永井荷風 (1879-1959) は 1903 年から 1908 年までアメリカ、次いでフランスに遊学し、アメリカに滞在した経験を基に短篇集『あめりか物語』(1908)を著している。『あめりか物語』は当時の文壇で評判となり、荷風の名前はこれ以降広く知れ渡ることになった。ここに含まれる「酔美人」という短編の舞台は 1904 年のセントルイスで、ちょうど当時開かれていたセントルイス万博の様子が作中で描かれている。展示資料は、『あめりか物語』の初版本。

## 50. 手塚治虫エッセイ集 4 / 手塚治虫. 講談社, 平成 9(1997)年【KC486-G76】

手塚治虫 (1928-1989) は 1970 年の大阪万博で幾つかの企画に関わっているが、それに先立って、1964 年ニューヨーク万博と 1967 年モントリオール万博を見学した。ニューヨーク万博については「ニューヨーク博見てある記」(初出『週刊サンケイ』1964.5.18)、モントリオール万博については、「鉄腕アトムのカナダ万国博見物」(同『サンケイ新聞』1967.6.5)、「モントリオール万国博」(同『漫画サンデー』1967.7.5)などのエッセイが残されている。

---

### 第 1 章の参照・参考文献

- ・ 味岡京子「1893 年シカゴ万国博覧会「女性館」への日本の出品：「女性の芸術」をめぐって」『人間文化論叢』9 巻, 2006, pp.1-11. 【Z71-C751】
- ・ 味岡京子「一九世紀末の《モダン・ウーマン》が未来に繋ごうとしたこととは?: メアリー・カサット、シカゴ万博「女性館」壁画」『シモーヌ』2 巻, 2020, pp.35,53-60,73. 【Z72-S413】
- ・ ヴァルター・ベンヤミン (今村仁司ほか訳)『パサーージュ論 1』岩波書店, 2020. 【KS429-M128】
- ・ 内山淳子「シカゴ万国博覧会「女性館」における東西の出会い：メアリー・カサットと渡辺幽香」メアリー・カサット画, 横浜美術館ほか編『メアリー・カサット展 = Mary Cassatt retrospective』NHK, 2016, pp.158-162. 【KC16-L1960】
- ・ 江崎聡子「「新しい女性」の肖像：メアリー・カサットによるシカゴ万博女性館の壁画『モダンウーマン』」『アメリカ太平洋研究』3 巻, 2003, p.95-114. 【Z71-F985】

- ・ 鹿島茂『パリ万国博覧会：サン=シモンの鉄の夢』（講談社学術文庫 2726）講談社, 2022. 【D7-M60】
- ・ 楠幹江「シカゴ万国博覧会における二人の女性：Ellen Swallow Richards & Mary Stevenson Cassatt」『安田女子大學紀要』47号, 2019, p.211-218. 【Z22-579】
- ・ 小玉齊夫「光と電気・1900年パリ万国博覧会--科学的<厳密性>と日常的<便宜性>(2)」『駒澤大學外国語部論集』60号, 2004.3, pp.155-194. 【Z12-281】
- ・ 小沼文彦訳『ドストエフスキー全集 第4巻（死の家の記録, いやな話, 冬に記す夏の印象）』筑摩書房, 1970. 【988-cD72d-K】
- ・ 佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版, 2015. 【D7-L51】
- ・ 佐野真由子編, 佐野真由子ほか執筆『万博学：万国博覧会という、世界を把握する方法』思文閣出版, 2020. 【D7-M30】
- ・ シャーロット・ブロンテ [著], 中岡洋, 芦澤久江編・訳『シャーロット・ブロンテ書簡全集 註解 下(1851~1855年)』彩流社, 2009. 【KS152-J122】
- ・ 吹田市立博物館編『万国博覧会：“人類の進歩と調和”に至るまで：令和2年度秋季特別展』吹田市立博物館, 2020. 【D7-M38】
- ・ 鈴木善勝「万国博覧会の歴史--その伝統と発展の航路」『通商産業研究』14巻5号, 1966.10, pp.108-139. 【Z3-636】
- ・ 中里一郎編『博覧会協会桑港万国博覧会事務報告』博覧会協会, 1916.【326-166】
- ・ 名古屋学院大学総合研究所編『国際博覧会を考える：メガ・イベントの政策学』晃洋書房, 2005. 【D7-H51】
- ・ 平野繁臣「人類の文明の表現としての万国博覧会」『国際交流』19巻2号, 1997.1, pp.54-61. 【Z21-225】
- ・ 平野繁臣『国際博覧会歴史事典』内山工房, 1999. 【D7-G26】
- ・ 松村昌家『水晶宮物語：ロンドン万国博覧会 1851』リプロポート, 1986. 【D7-74】
- ・ 松村昌家「ロンドン万博会場の幕府使節団」『図書』574号, 1997.3, pp.22-27. 【Z21-184】
- ・ 三島雅博『明治期の万国博覧会日本館に関する研究』神戸大学, 1993.【UT51-93-R367】
- ・ 宮本又次「万国博覧会の歴史--内国勸業博覧会の歴史--」『都市問題研究』17巻11号, 1965.11, pp.73-94. 【Z2-613】
- ・ 山田久美子「シカゴ万博と鳳凰殿」『ことば・文化・コミュニケーション』2巻, 2010, pp.133-144. 【Z71-Y268】

- ・ 山本順二『漱石のパリ日記：ベル・エポックの一週間』彩流社, 2013. 【KG667-L54】
- ・ 吉田典子「1900年パリ万国博覧会—政治—・文化・表象—」『国際文化学』3号, 2000.9, pp.13-33. 【Z71-D112】
- ・ 吉田光邦編『図説万国博覧会史：1851-1942』思文閣出版, 1985. 【D7-66】
- ・ 吉田光邦『万国博覧会：技術文明史的に 改訂版』（NHK ブックス 477）日本放送出版協会, 1985. 【D7-67】
- ・ 吉田光邦『万国博覧会の研究』思文閣出版, 1986. 【D7-71】
- ・ 古田亮「閣龍世界博覧会独案内（コロンプスせかいはくらんかいひとりあんない）」東京国立博物館編『海を渡った明治の美術：再見!1893年シカゴ・コロンプス世界博覧会 特別展観』東京国立博物館, 1997, pp.90-94. 【K16-G142】
- ・ 「1873年ウィーン万博」国立国会図書館ウェブサイト <<https://www.ndl.go.jp/exposition/s1/1873.html>>
- ・ 「1876年フィラデルフィア万博」国立国会図書館ウェブサイト <<https://www.ndl.go.jp/exposition/s1/1876.html>>
- ・ Wolfe, Karen. "'Song of the Exposition' [1871]". The Walt Whitman Archive. <[https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry\\_53.html](https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_53.html)>

(URLの最終アクセス日は全て2023年1月11日)

## 第2章 世界大戦を挟んで（1928年～1960年）

万国博覧会の開催は各国が自由に行うことができた。そのため、主催国が増え万博が頻繁に開催されるようになると、参加国の負担増などの問題が生じるようになっていった。そうした状況を背景として、1928年、フランスの呼び掛けにより、開催頻度、事務手続、内容等を規定した「国際博覧会に関する条約」（国際博覧会条約）が31か国で調印された。これ以降の万博は、パリに本部を置く博覧会国際事務局（BIE）が統括することとなり、ここに万博の制度的枠組みが確立された。

第2章では、条約成立の1928年から、第二次世界大戦を挟み戦後初の開催となる1958年ブリュッセル万博までを取り上げる。なお、実際に国際博覧会条約に基づき万博が開催されるようになったのは、1935年ブリュッセル万博以降とされている。

### 国際博覧会条約

国際博覧会条約では、開催頻度を始めとする万博の開催基準が定められた。また、内容により、一般博覧会、特別博覧会という2区分が設けられている。

■一般博覧会…二つ以上の生産部門における人類活動の成果を内容とするもの、又は特定分野（衛生、応用美術、近代的生活、植民地の開発等）における進歩全体を示すことを目的とするもの

■特別博覧会…応用化学（電気、光学、化学等）、技術（織物、鋳造、印刷等）、原料（皮革、絹、ニッケル等）、生活必需品（暖房、食料品、輸送等）から特定の一分野に絞って開催されるもの

一般博覧会の特定分野には「植民地の開発」が例示されている。衛生、応用美術、近代的生活と並んで挙げられていることから、植民地開発が当時の各国の価値観においてごく一般的なものであったことが想像される。

### 51. 進歩一世紀市俄古万国博覧会満洲出品報告書 / 進歩一世紀市俄古万国博覧会満洲出品参加残務整理事務所 編. 進歩一世紀市俄古万国博覧会満洲出品参加残務整理事務所, 昭和9(1934)年【674-13】

館内／図書館・個人送信

シカゴ市制100年を記念して開催された1933年シカゴ万博では、無窓建築や空調といった新たな建築様式・技術の導入が見られたほか、企業単独のパビリオンが目立った。写真はゼネラルモーターズのパビリオン。さながら自動車の組立工場のような会場で、来場者はその場で自動車を購入してそのまま自動車に乗って帰ること

もできたという。展示資料は満州からの出品に関する報告書だが、豊富な収録写真からは万博全体の様子をうかがい知ることができる。

## 52. 国際博覧会に関する条約（一九二八年十一月二日）（資料体系アジア・アフリカ国際関係政治社会史 第5巻 [第5分冊 g]（アジア・アフリカ（第三世界）5g） / 浦野起央 編著. パピルス出版, 平成4(1992)年【A76-94】

国立国会図書館内限定

1928年に成立した国際博覧会条約は、「第1編 定義」「第2編 博覧会の回数」「第3編 博覧会国際事務局」「第4編 招請国及び参加国の義務」「第5編 褒賞」「第6編 最終規定」の6篇40条から成っていた。国際博覧会を内容により一般博覧会と特別博覧会に区分することは第2条、開催の頻度や回数は第4条で規定している。

### 1937年 パリ万博

「現代生活の中の芸術と技術」をテーマに、パリのトロカデロ広場で開催された。当時フランスでは、左派の人民戦線政府が成立し、それを追い風に労働者によるストライキが多発、その結果、会場建設や開幕が大きく遅れた。

会場でナチス政権のドイツ館とソビエト館がエッフェル塔を挟んで向かい合う様子は、対立するファシスト政権のドイツと社会主義国家のソビエト連邦を象徴しているかのようであったという。また、スペイン館で、スペイン内戦下でのゲルニカ爆撃を題材にしたピカソの作品「ゲルニカ」が展示されるなど、華やかさの中にも第二次世界大戦開戦前の不穏な緊張感を感じさせる万博であった。

日本では、日本館の建築を巡って計画が二転三転し、「日本的なものとは何か」という議論が建築学界を中心に巻き起こった。

## 53. 一九三七年「近代生活ニ於ケル美術ト工芸」巴里万国博覧会協会事務報告 / 巴里万国博覧会協会 編. 巴里万国博覧会協会, 昭和14(1939)年【776-36】

インターネット公開

1937年パリ万博の報告書。会場ではエッフェル塔を挟んでドイツ館とソ連館が向かい合っていた。左のドイツ館（設計：アルベルト・シュペーア）はナチスの党章であるハーケンクロイツ（鉤十字）に驚を掲げ、右のソ連館（設計：ボリス・イオフアン）の頂には鎌とハンマーを振りかざす「労働者とコルホーズ女性像」がそびえている。両館が対峙する様子は、当時の対立関係を象徴しているのにも見える。

巴里万国博覧会協会から日本館設計を受託した国際文化振興会は、岸田日出刀に設計を委嘱した。岸田が指名した建築委員の前田健二郎、前川國男、市浦健、谷口吉郎は、斬新で近代的な前川國男案を選んだが、協会は“日本的でない”としてこれを採用せず、前田健二郎に改めて実施案の作成を委嘱、一旦は伝統的な日本建築案に落ち着いた。しかし、建設資材や労働力は現地調達という参加条件が課されたため、建築は、ル・コルビュジェの下で修行し現地の建築事情に明るい坂倉準三に一任された。しかし、坂倉は前川案・前田案とも異なる現代的な、それでいて鳥居からヒントを得た庇や障子をイメージした棧など伝統的な様式も調和させた日本館を建設した。この日本館は現地で高い評価を得て、パピリオンの建築部門のコンクールでグランプリを受賞している。\*

\*報告書には日本館を巡る詳しい経緯は記載されていない。

#### **54. 坂倉準三〈パリ万国博覧会日本館〉 = Junzo Sakakura Pavillon du Japon de l'Exposition internationale de Paris de 1937 (MODERN MOVEMENT) / J.SAKAKURA ARCHITECTE PARIS-TOKYO 実行委員会 編. 建築資料研究社, 平成 31(2019)年【KA382-M3】**

坂倉準三が設計した日本館に関する写真、図面、研究者による論考等が収録された資料。3次元の仮想空間で日本館を再現した BIM (Building Information Modeling) のプロジェクトについても言及がある。2018年にアンスティチュ・フランセ東京で開催された展覧会「建築家・坂倉準三 パリー東京」とシンポジウム「建築家・坂倉準三 パリ - 東京:パリ万国博日本館の建築精神」に関連した内容となっている。

#### **55. 1937年巴里萬國博・日本館計劃 / 前川國男 (国際建築. 12巻9号 昭和 11(1936)年9月. 美術出版社【Z520.5-Ko1】)**

国立国会図書館内限定

前川國男による日本館の設計案。4つの立体物が合わさったような形状で、来場者は最も高い位置にあるタワー状のエントランスから入った後、展示室を通過して階段を下り、日本庭園に面した展示室を抜け、テラスから階段を下り、更にレストランを経て扇状の大きな展示室へ至る。展示室の上部には巨大な写真壁画を配置し、下部にはエッフェル塔やセーヌ川を遠望できる窓を設置する計画であった。しかし、この現代的な設計案は“日本的でない”として、巴里万国博覧会協会に採用されなかった。

## 56. 巴里博出品寫眞壁画（アサヒカメラ. 23 卷 4 号 昭和 12(1937)年 4 月. 東京朝日新聞発行所【Z11-28】）

国立国会図書館内限定

1937 年パリ万博では、各国が大型の写真である写真壁画を出品した。観光宣伝を目的に鉄道省国際観光局から出品された「日本観光写真壁画」は幅 18 メートル、高さ 2.1 メートルで、国内最大規模だったとされる。制作実務を担ったのは国際報道写真協会の原弘、木村伊兵衛、小石清、渡辺義雄で、約 50 点の写真をモンタージュや二重焼付等を用いて絵巻形式で仕上げた。写真壁画は、このほかに「日本の住生活」「日本の学校生活」が出品されている。

展示資料は「日本観光写真壁画」の制作者の一人である原弘の記事。制作過程、苦労した点、国内の批判への反論等がつづられている。出品に対し、国内では、近代技術の結晶として賞賛する声がある一方で、富士山・大仏・芸妓（げいこ）といったステレオタイプのモチーフに対する批判もあった。

### 1939 年 ニューヨーク万博

アメリカ初代大統領ジョージ・ワシントンの就任 150 周年を記念して、ニューヨークで開催された。この万博では、特に GM（ゼネラルモーターズ）、フォード、US スチールといった企業によるパビリオンの存在感が際立ち、1933 年シカゴ万博以降の流れとして、企業広告の色合いが強まった万博とされている。

会場では、テーマ「明日の世界の建設」を表現した三つの建築物——①高さ 212 メートルのピラミッド型尖塔（せんとう）「トライロン（Trylon）」、②直径 65 メートルの球体「ペリスフェア（Perisphere）」、③球体につながるスロープの橋「ヘリクライン（Helicline）」——が人目を引いた。このテーマが示すとおり、未来都市のジオラマやタイムカプセルなど未来志向の展示が多く見られ、工業製品では新素材としてナイロンや各種プラスチックが人気を集めた。

## 57. 明日の世界文化：小型カメラによる紐育万国博覧会写真集 / 井上鍾編. 番町書房, 昭和 15(1940)年【755-59】

館内／図書館・個人送信

1939 年ニューヨーク万博で、日本は特設館（いわゆる日本館）と集合展示施設である国際館の日本部に出席した。神社建築様式の特設館に対し、現代的な空間設計の国際館日本部は、写真壁画が出品の主体だった。その会場設計等を担当したのは、バウハウス留学時に写真やフォトモンタージュを学んだ山脇巖。展示資料は前期展示の様子で、観光案内所と、山脇が構成を担当した写真壁画「観光日本」が写っている。下地に銀箔（ぎんぱく）やちりめん布地を用いて立体感を与えるなど随



所に工夫を凝らしたものだだったという。前期の写真壁画には、このほか「躍進日本」「科学日本」「秀麗富士」があった。

ニューヨーク万博のシンボリックな建築である白一色の「テーマ・センター」は、球体のペリスフィア、尖塔のトライロン、ヘリクライン（手前のカーブしたスロープ）で構成されていた。来場者はまずトライロンからエスカレーターでペリスフィアに入り、展示を見た後、トライロンを通過してヘリクラインへ出る動線となっていた。ヘリクラインからは博覧会の全景が一望できた。

・ **紐育萬國博覧會出品壁面寫眞「日本産業」(國際文化 9 号 昭和 15(1940)年 6 月 國際文化振興會【Z11-170】)** 館内／図書館・個人送信

写真壁画は、特設館と国際館日本部の両方に出品され、前期・後期で全て入れ替えられた。国際館日本部の後期展示に出品されたのは「日本産業」「現代日本生活」「東洋は招く」「近代ユーモア」の4点。展示資料は「日本産業」で、造船、手工業、紡績、機械工、航空のテーマごとに制作された写真壁画を合わせた構成となっている。制作者は橋本徹郎、土門拳、田村茂、溝口宗博、伊藤幸男。

## 1940 年 紀元二千六百年記念日本万国博覧會

日本で万博を開催する構想は明治期に何度かあったが、いずれも頓挫していた。その後、紀元 2600 年に当たる 1940 年に記念事業として開催する計画が持ち上がり、1936 年に正式決定された。1940 年には東京オリンピックも計画されていた。万博会場は東京・月島（現在の晴海）の埋立地を中心とした約 150 万平方メートル（約 45 万坪）と横浜・山下公園の約 10 万平方メートル（約 3 万坪）、入場者は 4,500 万人を見込んでいた。シンボリックな建築「肇国記念館」の設計コンペや、都心と埋立地を結ぶ開閉式の勝鬃橋の完成、前売入場券の発売など、開催に向けて着々と準備が進められたが、1937 年の日中戦争開戦で社会情勢が急速に変化したことを受けて、1938 年 7 月に無期延期が決定された。オリンピックの開催権も返上が決まり、二つの計画は幻となった。

## 58. 万博. 19 号 昭和 12(1937)年 12 月. 紀元二千六百年記念日本万国博覧會事務局【Z3-1369】

館内／図書館・個人送信

紀元二千六百年記念日本万国博覧會の宣伝用ポスターは一般公募され、当選作品のうち、3 等 1 席の中山文孝『赤色地富嶽金鷲図』が宣伝資料に数多く用いられることになった。この図案では富士山と金鷲（きんし、日本神話の靈鳥）がモチーフに

使われている。1等1席の同じく中山文孝による『赤色地黒色古代甲冑』が採用されなかった理由として、図案にある神武天皇の肖像が問題になったという説がある。『万博』は、万博開催に向けて発行された雑誌で、開催準備の様子や海外の万博に関する情報が伝えられた。

## 59. 万博. 28号 昭和13(1938)年9月. 紀元二千六百年記念日本万国博覧会事務局【Z3-1369】

館内／図書館・個人送信

1938年7月15日の閣議において、万博の延期とオリンピックの中止が決定された。展示資料は延期を報じたもの。「現下の非常事態に対処する政府の大方針に基づき」一時延期することや、発行済の抽選券附回数入場券は開催まで有効であることが書かれている。延期決定後も『万博』は1941年2月まで発行が続き、後継誌となる『博展』（『万博』と『博覧会時報』が統合）は1944年3月まで刊行された。

## 60. 2600 Japan International Exposition : Grand International Exposition of Japan, March-August 1940 / The Association of Japan International Exposition, 1937.2【152-200】

館内／図書館・個人送信

国会議事堂、寺社、自然、文化、産業等を写真入りで紹介している。表紙は東京美術学校の森田武による木版画で、和綴の凝った作りとなっている。

## 1958年 ブリュッセル万博

第二次大戦後、大規模な万博として初めての開催となったブリュッセル万博では、「科学文明とヒューマニズム」というテーマが掲げられた。注目を集めたのは高さ103メートルのシンボルタワー「アトミウム」。直径18メートルの金属球体9個が連なる鉄の結晶構造を模しており、球体内部では原子力の平和利用をテーマとした展示が行われた。

この万博では、開催国であるベルギーが植民地であるコンゴについて宗主国からの視点で諸産業や文化等を紹介したほか、現地の様子を再現した会場でコンゴの人々が生活する様子を展示するなど、植民地主義が色濃く残っていた。しかし、その後数多くの植民地が独立を果たすなど世界情勢は大きく変わることとなり、植民地展示はこのブリュッセル万博が最後となった。

**61. ブラッセル万国博を現地に見る(1) / 齊藤重孝 (工芸ニュース. 26 巻 6号 昭和 33(1958)年 7月. 工業技術院産業工芸試験所編【Z11-338】)**

館内／図書館・個人送信

1958年ブリュッセル万博の訪問記事。アトミウムやベルギーのコンゴ館などに言及している。掲載誌の『工芸ニュース』は工芸指導所の機関誌。工芸指導所は、工芸の近代化・産業化の推進を目的として商工省により1928年に仙台市に設立されたもので、いわば国立の工芸・デザインの指導機関であった。

\*展示期間：2023年1月19日(木)～1月31日(火)

**62. ブラッセル万国博覧会 (国際建築. 25巻8号 昭和 33(1958)年 8月. 美術出版社【Z520.5-Ko1】)**

国立国会図書館内限定

日本館の展示テーマは「日本人の手と機械」で、設計者は前川國男であった。前川は庭園や内部展示の設計・企画にも関わり、各担当者(グラフィック・デザイン：山城隆一、展示設計：剣持勇、写真：渡辺義男、音楽構成：外山雄三氏)と共同で準備を進めた。1,000坪ほどのゆるやかな傾斜地である敷地全体を一つの庭として捉え、池や岩、草、展示スペース等が配置されたという。展示資料には、前川、木村俊彦(建築家)、浜口隆一(建築評論家)による座談会も収録されている。

**63. もっと知りたいル・コルビュジェ：生涯と作品 (アート・ビギナーズ・コレクション) / 林美佐 著, 東京美術, 平成 27(2015)年【KA131-L28】**

オランダの電気機器製造会社フィリップスは、ブリュッセル万博の施設設計をル・コルビュジェに依頼した。建築実務は助手のヤニス・クセナキスが担い、内部では電子音楽を用いたコルビュジェ制作の映像作品「電子の詩」などが流された。音楽の担当はエドガー・ヴァレーズで、一部クセナキスによる楽曲も採用されている。フィリップス館の斬新な建築や展示空間、音楽、映像は、同館で商品が一切展示されなかったことも相まって、来場者の話題になったという。ちなみに、コルビュジェは、1937年パリ万博において、全体がテント張のパビリオン「新時代館」も手がけている。

**64. ブラッセル万国博・現地から / 斉藤重孝 (工芸ニュース. 26 巻 4 号 昭和 33(1958)年 5 月. 工業技術院産業工芸試験所編【Z11-338】)**

館内／図書館・個人送信

展示資料は 1958 年ブリュッセル万博の訪問記事。デザインや工芸の観点から各国の出展内容についてコメントしている。

\* 展示期間：2023 年 2 月 1 日 (水) ～2 月 14 日 (火)

**65. 特集:ブラッセル万国博日本参加計画の全貌 (工芸ニュース. 26 巻 3 号 昭和 33(1958)年 4 月. 工業技術院産業工芸試験所編【Z11-338】)**

館内／図書館・個人送信

日本館の展示は「歴史」「産業」「生活」の 3 章構成で、この号では各章の内容を写真で紹介している。展示資料は第 1 章「歴史」。日本人の手による歴史的遺産を中心に展示し、戦争によって多くを失った戦前の日本を表現したとされている。

**コラム 3 : 植民地主義と博覧会**

第 1 回ロンドン万博以降、万博が世界のブームとなっていく時代は、帝国主義の下に各国が領土を拡大していく時代でもあった。万博でも、産出される原材料や生産物の展示にとどまらず、写真や模型を用いて植民地の地理・文化・産業を紹介し、統治により現地の文明化が進んだことを示すなど、植民地に関する展示が盛んに行われるようになっていった。1928 年成立の国際博覧会条約においても、一般博覧会の一分野に「植民地の開発」が例示されており、植民地開発が参加国の主要な関心事の一つであったことが分かる。

更に、いわゆる「人間の展示」が行われ、万博での植民地展示に異文化・未開社会への興味をかき立てる要素が加わった。人間を見世物とする催し自体は当時既にヨーロッパ各地で行われていたが、その種の展示が万博にも登場したことになる。日本においても、国内外の博覧会で、台湾、朝鮮、満州の人々や、アイヌの人々などの展示が行われている。

このコラムでは、万国博覧会だけでなく日英博覧会 (1910 年) や国内の博覧会も取り上げ、植民地展示がどのように行われたかを資料を通して振り返る。

**66. Livre d'or de l'Exposition : 1889 / sous la direction de C.-L. Huard. L. Boulanger, [1889]【D7-D5】**

1889 年パリ万博では、アルジェリア、チュニジアなどフランス領の展示館がアンヴァリッド区域に集められた。また、セネガル、ニュー・カレドニア、西インド諸

島、ジャワ島などの先住民の人々の集落も設けられ、生活する様子が展示された。このような「人間の展示」が万博で行われたのは、このパリ万博が最初と言われている。展示資料はパリ万博に関する絵図入りの解説書で、来場者がカナカ族の住居をのぞいている様子が描かれている（タイトルは「LE VILLAGE CANAQUE, À L'ESPRANADE DES INVALIDES」。なお、このイラストは『Le Monde illustré』1889年7月27日号にも掲載されている）。

**67. Official views of the World's Columbian Exposition / issued by the Department of Photography ; C.D. Arnold, H.D. Higinbotham, official photographers. Press Chicago Photo-Gravure Co., c1893 [D7-A63]**

1893年シカゴ万博の写真集。学術的な展示が集まるメイン区域のホワイト・シティに対して、巨大観覧車を中心としたミッドウェイ・プレザンスは娯楽街で、幅約180メートル・全長約1.6キロメートルの区域に、アフリカ・ダホメの原住民集落、ムーア人のカフェなどがひしめき合っていた。元は人類学者フレデリック・パットナムが、人類の進歩を示すべく未開から文明へと民族を配置することを計画していたが、興行師ソル・ブルームによりショー的な要素が強い内容に変えられたという。

・ **A history of the World's Columbian Exposition : held in Chicago in 1893 v. 1 (Narrative) / edited by Rossiter Johnson. Athena Press, 2004 [D7-B5]**

1893年シカゴ万博の会場図。会場は、ミシガン湖畔のジャクソン公園を中心とする湿地帯を造成した約700エーカーの土地だった。展示施設が集まるメインの区域（図面中央）の下部に位置する細長い敷地が、娯楽区域のミッドウェイ・プレザンス。

**68. 1904 World's Fair : the Filipino experience / Jose D. Fermin. University of the Philippines Press, c2004 [G131-P92]**

1904年セントルイス万博において、「人間の展示」は三つの区域で行われていた。その一つが、約50エーカー（東京ドーム約4個分）の敷地に建設されたフィリピン村である。そこでは1,000人を超える人々が生活をさせられ、モロ族、イゴロット族、ネグリト族などの集落が、文明化の度合いにより序列化した形で展示された。中でもイゴロット族の人々の犬を食べる習俗は注目を集め、そのイメージはメ

ディアによって米国内に広められたという。フィリピン出身の著者による展示資料には、フィリピン村で起きたことやその背景などが詳細に記されている。

### 1903年 第5回内国勸業博覧会

殖産興業の奨励を主な目的として政府により開催されてきた内国勸業博覧会は、大阪・天王寺会場での5回目にして最大規模となり、入場者は前回の約114万人から約530万人に激増した。その理由として、鉄道の発達や初の夜間開場、初の海外パビリオン出展なども影響したと考えられているが、決定的だったのは余興で、1900年パリ万博をまねた不思議館のほか、動物園やウォーターシュートは特に人気を集めた。これ以降、国内の博覧会では娯楽的性質が一気に強まったとされる。会場には初の植民地展示として台湾館が置かれた。また、会場外に建てられた民間による学術人類館では、清国、朝鮮、台湾、沖縄の人々やアイヌの人々などを住まわせ、その生活の様子を展示しようとした。しかし開催前に清国から、開催後には大韓帝国、沖縄から抗議の声が上がり、それらの人々に関する展示は中止となった。

・ **[第五回]内国勸業博覧会 / 大阪写真会 撮影. 第五回内国勸業博覧会協賛会, 明治36(1903)年【400-84】**

インターネット公開

内国勸業博覧会の場外が写っている。写真の右上部には学術人類館の幟（のぼり）が立っている様子が見える。

**69. 風俗画報. 臨時増刊 (第5回内國勸業博覧會圖會上編). 269号 明治36(1903)年6月. 東陽堂【雑23-8】**

国立国会図書館内限定

第5回内国勸業博覧会をテーマに掲げた『風俗画報』の臨時増刊号。「場外の余興学術人類館」として、学術人類館で展示された人々の地域・人数、出品物等が記載されている（ただし、地域・人数は新聞や雑誌により一部異なっている）。『風俗画報』（1889年～1916年刊行）は日本最初のグラフィック雑誌と言われ、絵図や写真を多用し、ニュース、風俗、文学、歴史など幅広いテーマを扱った。

**70. 學述人類館ジャヴァ土人風俗 / 坂卷耕漁 (風俗画報. 臨時増刊 (第5回内國勸業博覧會圖會下編) 275号 明治36(1903)年9月. 東陽堂【雑23-8】)**

国立国会図書館内限定

タイトルから、学術人類館でジャワ人が展示されている様子を描いたものと推察される。坂卷耕漁（月岡耕漁）は日本画家。木版の能楽絵を得意とし、『風俗画報』などの挿絵も手がけた。

- ・ **人類館と人種地圖 / 坪井正五郎 (東洋學藝雜誌. 20 卷 259 号 明治 36(1903)年 4 月.東京社【雑 55-24】)** 国立国会図書館内限定

学術人類館は、始め「人類館」として大阪地方の有志で計画された（後に学術人類館へ改称）。東京帝国大学理科大学教授で日本の人類学創設の中心人物である坪井正五郎は、この計画に賛同し、人類学教室の収集品を貸与したほか、世界人種地図を作製・提供した。世界人種地図とは、世界から 50 箇所の人種を選び、100 体の切抜人形を縦約 2.7 メートル・横約 4.5 メートルの世界地図に立てたものである。坪井は 1889 年パリ万博で植民地展示を視察していた。展示資料の『東洋学芸雑誌』は、明治から昭和初期にかけて刊行された学術総合雑誌。

### 1910 年 日英博覧会

イムレ・キラルフィーを代表とする博覧会会社と日本政府により 1910 年にロンドンで開催された。参加を提唱した駐英日本大使の小村寿太郎（後に外務大臣）は、日本が参加することは、日清戦争後に広まった黄禍論や反日感情を緩和し、両国の関係強化に繋がると主張した。日本の出展は、「鳥獣戯画絵巻」、長谷川等伯の作品、東大寺の天灯鬼・竜灯鬼等の優れた美術品など、質・量とも充実していたが、イギリスは小規模な出品にとどまった。

展示施設の一つである東洋館では、台湾総督府、韓国統監府（会期中に朝鮮総督府に改組）、関東都督府、南満州鉄道株式会社から、台湾、朝鮮、満州に関する出品物が展示された。このほか余興として、会場に台湾村とアイヌ村が作られ、人々がそこで実際に生活している様子を見せる展示が行われている。

- ・ **Official report of the Japan British Exhibition, 1910, at the Great White City, Shepherd's Bush, London / Printed by Unwin, 1911【F-184】**

1910 年の日英博覧会では、日本の歴史と発展状況を展示した日本歴史館が人気を博したという。奈良時代から現代（出展当時）までを 12 区画に分け、それぞれの時代に合った衣装の人形と背景画を配置した。

- 71. **日英博覧会事務局事務報告 下 / 農商務省, 明治 45(1912)年【321-103】** インターネット公開

1910 年日英博覧会の報告書。同博覧会では、日本の古美術品等が出品されたほか、キラルフィーの要請により各種の余興が開催された。日本の余興参加者は「飴

(あめ) 細工」や「塗師」など約 60 種の職業の 200 名以上に上った。余興に関する協議は、来日したジュリアン・ヒックスと事務局とで行われ、日本側の事務・監督の代表は、万博興行の経験を持つ榊引弓人が担った。展示資料の左ページにある余興案の中には、「アイヌ村落」「台湾蕃人ノ生活状態」の記載がある。会場には 900 坪のアイヌ村や 1,300 坪の台湾村が設置され、連れてこられたアイヌや台湾の人々がそこで生活する様子が展示された。

## **72. Illustrated London News. 3716 号 1910 年 7 月 9 日. Illustrated London News & Sketch Ltd 【Z55-A197】**

日英博覧会では、余興として、3,900 坪の広大な敷地に「フェア・ジャパン」(Fair Japan) と銘打った日本人街や、農村風景を再現した「ポエティック・ジャパン」(Poetic Japan) が建設された。前者には 21 軒の日本家屋が建てられ、職人・芸人による実演や販売が行われた。京都相撲の横綱・大碓らの相撲興行もあり人気を博したという。だが、観覧した新聞記者の長谷川如是閑などから、余興は見世物であるとの強い批判が提起された。展示資料はイギリスのイラスト入り週刊新聞で、「CHARACTERS AND CURIOSITY AT THE "JAP-ANGLO" JAPANESE, AINUS, AND FORMOSANS AT SHEPHERD'S BUSH (日英博の登場人物と珍しいもの 日本、アイヌ、台湾の人々)」というキャプションが付き、アイヌや台湾の人々、相撲、職人の実演などのスケッチがちりばめられている。

## **・ Illustrated London News. 3721 号 1910 年 8 月 13 日. Illustrated London News & Sketch Ltd 【Z55-A197】**

日英博覧会では、山岳鉄道と運動スタジアムに挟まれた一角にアイヌ村や台湾村が設置され、人々がそこで生活する様子が展示された。イラストは、アイヌの人々が英国王ジョージ 5 世と王妃メアリーに謁見している様子を報じた記事で、右端のアイヌの男性は赤ん坊を抱いている。博覧会中の出産は複数の新聞で取り上げられており、現地で話題になったことがうかがわれる。



## 1912年 拓殖博覧会

明治期の日本は、北海道開拓に続き、台湾、樺太、関東州、そして韓国を統治下に置いていった。このような状況下で、植民思想を国民に喚起することを主な目的に開催されたのが拓殖博覧会である。台湾の漢民族や原住民族（現在の台湾の先住民族の一般的呼称）、樺太のウィルタやニブフ、そして樺太や北海道のアイヌの人々が集められ、会場に建てた伝統的家屋で生活し、機織や竹細工作りなどを実演した。人々の招集や設計は、展示の顧問となった坪井正五郎らの人類学者が担った。「人間の展示」という意味では、多くの抗議があった第5回内国勧業博覧会の学術人類館と同様であったが、新聞等での目立つ批判は当時見られなかったとされている。

拓殖博覧会は、1912年に東京の上野公園で開催された後、翌年、大阪の天王寺においても大阪商工会の主催で開催されている。

### 73. 拓殖博覧会記念写真帖 / 明治記念会, 大正元(1912)年【特 100-25】

インターネット公開

1912年に東京・上野公園で開催された拓殖博覧会の写真集。台湾や樺太、北海道から集められた人々は、会場内の家屋で生活させられ、その様子が展示された。写真にはそれぞれの民族の集合写真、各地の諸産物、樺太から連れてきたトナカイなど、展示の様子が写っている。アイヌ語研究者の金田一京助はこの博覧会へ通っており、そこでのアイヌの人々との出会いがユーカラ研究を発展させる契機となったことが知られている。

### 74. 拓殖博覧会事務報告 / 拓殖博覧会 編. 拓殖博覧会残務取扱所, 大正2(1913)年【332-429】

インターネット公開

1912年に上野公園で開催された拓殖博覧会の報告書。いわゆる「人間の展示」のために集められた人々の写真等が掲載されている。「人間の展示」については、坪井正五郎（東京帝国大学理科大学教授）が顧問となり、東京人類学会の石田収蔵や大野延太郎が現地家屋の構造調査や材料収集を任せられ、会場ではそれが忠実に再現されたという。報告書には、会期中に行われた皇太子殿下（後の昭和天皇）の視察や、展示された人々と大臣、美術家、学者等が一堂に会した人種懇親会についても記載がある。

## 1935年 始政40周年記念 台湾博覧会

1895年の日清講話条約により日本に割譲された台湾について、統治の担当官庁である台湾総督府は、統治40年の成果を内外へ示す目的で1935年に台北市で博覧会を開催した。台湾各地、さらには日本本土からも大勢が訪れ、会期50日間中の来場者は延べ約276万人に上った。当時の台湾の人口が約520万人だったことからすれば驚異的な数である。また多くの原住民族（現在の台湾の先住民族の一般的呼称）が訪れたことは、日本の政策上有意義だったとされている。

総督府の展示では、米作りの過去と現在、鉄道や道路が整備された様子、原住民族の生活の変化等を示すことで、統治により文明化したことが強調された。吉本芸芸団の興行や博多どんたく、海女実演館といった娯楽的要素の強い見世物も多く、植民地同士のスポーツ対抗戦や、山岳地帯に暮らすパイワン族など原住民族による踊りも催された。

- ・ **臺北市鳥瞰圖 始政四十周年記念 / 吉田初三郎 [著], 田坂昇 編. 始政四十年記念臺灣博覧會協讚會, [昭和10(1935)年] 【YG913-2653】**

インターネット公開

始政四十周年記念台湾博覧会の開催に際して刊行された台北市の鳥瞰（ちょうかん）図。表紙を開くと、鮮やかに彩色された鳥瞰図が三つ折りの状態で収められている。裏面には台北市の概況や名所案内がある。作者の吉田初三郎は京都出身で、「大正の広重」とも呼ばれ、全国各地の観光案内絵地図を数多く制作した。極端なデフォルメを特徴とした彼の絵地図は、鉄道等の発達を背景とした観光ブームの中で「初三郎式鳥瞰図」として人気を集めた。

- 75. **始政四十周年記念台湾博覧会写真帖 / 始政四十周年記念台湾博覧会編. 始政四十周年記念台湾博覧会, 昭和11(1936)年 【719-22】**

インターネット公開

始政四十周年記念台湾博覧会の写真集。同博覧会では数々の余興が行われた。写真には、たき火の前に結婚式や粟（あわ）祭りの踊りを舞うパイワン族の人々を、大勢の観客が取り囲む様子が写っている。原住民族（現在の台湾の先住民族の一般的呼称）による踊りは8回催され、毎夜1万人から1万5千人の観衆を集める盛況ぶりだったと当時の報告書は記している。このほか、会場に建てられた家屋にタイヤル族の人々が集められ、その生活する様子が展示されている。

## 76. 始政四十周年記念台湾博覧会誌 / 始政四十周年記念台湾博覧会 編. 始政四十周年記念台湾博覧会, 昭和 14(1939)年 【779-76】

館内／図書館・個人送信

始政四十周年記念台湾博覧会の報告書。博覧会の準備、運営状況、出展内容等が写真入りで詳細に記されている。展示箇所の図は第一次宣伝ポスターの図案で、作者は記録映画作家・写真家の塚本閻治。手前に台湾を想起させる寺院・廟とバナナの木、後ろに台湾総督府の建物が描かれている。

### 第 2 章の参照・参考文献

- ・ 伊藤真実子『明治日本と万国博覧会』吉川弘文館, 2008. 【D7-J8】
- ・ 井上 さつき「1958年ブリュッセル万博日本館の音楽」『愛知県立芸術大学紀要』51号, 2021, pp.59-76. 【Z11-496】
- ・ 加藤哲郎監修・解説, 増山一成編・解説『関連資料 復刻版』(近代日本博覧会資料集成 紀元二千六百年記念日本万国博覧会 別巻)国書刊行会, 2015.【D7-L56】
- ・ 加藤哲郎監修・解説, 増山一成編・解説『紀元二千六百年記念日本万国博覧会 : 別冊解説』(近代日本博覧会資料集成) 国書刊行会, 2015. 【D7-L57】
- ・ 川畑直道「写真壁画の時代——パリ万国博とニューヨーク万国博国際館日本部を中心に」五十殿利治編『「帝国」と美術 : 一九三〇年代日本の対外美術戦略』国書刊行会, 2010, pp.379-578. 【K111-J63】
- ・ 楠元町子「国際関係史から見た万国博覧会——一九〇四年セントルイス万国博覧会を中心に」『法政論叢』43巻2号, 2007, pp.22-38. 【Z2-616】
- ・ 國雄行『博覧会と明治の日本』(歴史文化ライブラリー 298) 吉川弘文館, 2010. 【D7-J94】
- ・ 暮沢剛巳ほか『幻の万博 : 紀元二千六百年をめぐる博覧会のポリティクス』青弓社, 2018. 【D7-L105】
- ・ 小西雅徳「拓殖博覧会における人種展示と東京人類学会の役割について」『國學院大學博物館學紀要』29巻, 2004, pp.1-11. 【Z21-271】
- ・ 小原真史「特集 : 「人類館」の写真を読む」『Photographers' gallery press』14号, 2009.12, pp.3-55. 【Z71-H945】
- ・ 佐野真由子「文化の実像と虚像——万国博覧会にみる日本紹介の歴史」平野健一郎編『国際文化交流の政治経済学』勁草書房, 1999, pp.81-126. 【UA81-G67】
- ・ 佐野真由子編, 佐野真由子ほか執筆『万博学 : 万国博覧会という、世界を把握す

る方法』 思文閣出版, 2020. 【D7-M30】

- ・ 吹田市立博物館編『博覧会の風景 : EXPO'70 から 25 年 平成 7 年度企画展』吹田市立博物館, 1995. 【D7-E112】
- ・ 吹田市立博物館編『万国博覧会 : "人類の進歩と調和"に至るまで : 令和 2 年度秋季特別展』吹田市立博物館, 2020. 【D7-M38】
- ・ 中村嘉雄「ニューディール期における「理想」の「身体」—「人種」から「マシン」へ(1)」『北九州工業高等専門学校研究報告』52 号, 2019.1. <[http://library.kct.ac.jp/content/files/ResRep52/14\\_nakamura.pdf](http://library.kct.ac.jp/content/files/ResRep52/14_nakamura.pdf)>
- ・ 能登路雅子「世界コロンブス記念博覧会」Rossiter Johnson, ed, *A history of the World's Columbian Exposition : held in Chicago in 1893 v. 1*, 2004. 【D7-B5】
- ・ 平野繁臣『国際博覧会歴史事典』内山工房, 1999. 【D7-G26】
- ・ 平野暁臣『図説万博の歴史 = HISTORY OF THE UNIVERSAL EXPOSITION : 1851-1970 ([Shogakukan Creative Visual Book])』小学館クリエイティブ, 2016. 【D7-L85】
- ・ 夫馬信一『幻の東京五輪・万博 1940』原書房, 2016. 【FS27-L43】
- ・ 松田京子『帝国の視線 : 博覧会と異文化表象』吉川弘文館, 2003. 【D7-H32】
- ・ 松村昌家「日英博覧会 (1910 年) 公式資料と関連文献集成 別冊日本語解説」Masaie Matsumura (editor-in-chief), *The Japan-British Exhibition of 1910 : a collection of official guidebooks and miscellaneous publications volume 1*, Edition Synapse, 2011. 【D7-B33】
- ・ 三上祐三「ブラッセル世界博の日本館について」『工芸ニュース』25 巻 2 号, 1957.6, pp.12-13. 【Z11-338】
- ・ 宮武公夫『海を渡ったアイヌ : 先住民展示と二つの博覧会』岩波書店, 2010. 【G132-J38】
- ・ 宗形賢二「1893 年シカゴ万博における「大衆の民族学」--パットナムとブルームの比較」『国際関係研究』30 巻 2 号, 2010.2, pp.94-104. 【Z1-285】
- ・ 山路勝彦『近代日本の植民地博覧会』風響社, 2008. 【D7-J4】
- ・ 山路勝彦「日英博覧会と「人間動物園」」『関西学院大学社会学部紀要』108 号, 2009.10, pp.1-27. 【Z6-109】
- ・ 吉田光邦『万国博覧会 : 技術文明的に 改訂版』(NHK ブックス 477) 日本放送出版協会, 1985. 【D7-67】
- ・ 吉見俊哉『博覧会の政治学 : まなぎしの近代』(中公新書)中央公論社, 1992.【D7-E89】

- ・ 林恵玉「日本統治下台湾博覧会とその宣伝活動」中央大学経済研究所『中央大学経済研究所年報』43号, 2012, pp.597-648. 【Z3-1012】  
(URL の最終アクセス日は全て 2023 年 1 月 11 日)

### 第3章 戦後の社会から未来へ（1960年～）

1960年代以降も、万博は、世界情勢の変化に呼応してその姿を大きく変えてきた。1960年前後にアフリカ諸国等が相次いで独立を果たしたことに伴い、植民地展示は万博から姿を消した。一方、万博のテーマには「人間」「人類」といった語が頻繁に登場するようになり、万博の性格は、見本市や大衆娯楽を提供する場から、世界に明確なメッセージを打ち出す場へと変化していった。また、1970年大阪万博以降、欧米圏以外での開催が珍しくなくなったほか、それまで欧米人が占めていた博覧会国際事務局（BIE）の主要ポストに非欧米人が就任する例も出てきた。万博の頻繁な開催による各国の経済負担や質の低下などが問題視され、国際博覧会条約が何度か改正されたのもこの時期である。

第3章では、1960年以降現在に至るまでの万博の歩みを辿る。

#### 77. 万博と戦後日本 / 吉見俊哉 [著]. 講談社, 平成23(2011)年【D7-J143】

1970年大阪万博、1975年沖縄海洋博、1985年つくば科学博、2005年愛知万博を事例に、戦後日本の万博ブームについて考察した資料。4つの万博がいずれも1960～70年代にかけての国内情勢に構想の端緒を有すること、知識人が提示していた理念と実際の万博の姿に乖離があること、開催地の地域開発や公共事業と一体化したプロジェクトであったことを共通項として挙げ、一方で、大阪万博では微力だった反対派住民の活動が徐々に無視できない力を付けてきており、安易な地域開発が困難になりつつあるため、万博事業は政府や地方自治体にとってうま味の少ないものとなってきているとしている。

#### 植民地展示の終焉 -1962年 シアトル万博・1967年 モントリオール万博-

長らく続いてきた植民地展示が行われなくなったのは、1962年シアトル万博であり、続く1967年モントリオール万博もそれに続いた。国際博覧会条約から植民地についての記述が無くなるのは1972年の改正によってであるが、実態としてはそれ以前に、万博から植民地展示は姿を消した。

また、1967年のモントリオール万博では、複数国が合同で展示を行う共同館方式でのパビリオンが初めて設置された。この方式は、単独でパビリオンを建設することが難しい国のための支援措置という面があり、1970年大阪万博以降にも受け継がれたが、今日では、地理的に大括りする共同館方式（例：アフリカ共同館）は時代にそぐわないという見方が提起されるようになってきている。

**78. 特別レポート・シアトル 21 世紀博覧会 / 二川幸夫, 鈴木恂(近代建築. 16 巻 6 号 昭和 37(1962)年 6 月. 近代建築社【Z11-336】)**

国立国会図書館内限定

1962 年シアトル万博についての報告記事。二川幸夫（建築写真家）による会場の写真と、後に早稲田大学教授を務める鈴木恂氏（建築家）による批評が掲載されている。テーマに沿った展示を行っているのは開催国であるアメリカのみで他の参加国は見本市にアレンジを加えた程度と展示内容を評する一方、建築については科学館とハワイエを筆頭に美しく高尚であると賛辞を送っている。

**79. モントリオール万国博(特集) (建築と社会. 48 巻 8 号 昭和 42(1967)年 8 月. 日本建築協会【Z11-334】)**

館内／図書館・個人送信

1967 年モントリオール万博の特集記事。会場写真、日本建築協会の視察団レポート、電気設備・空調設備の解説等が掲載されている。同万博開催時には既に 1970 年の大阪万博開催が決定しており、日本国内における万博への関心の高まりがうかがわれる。

**アジア初の万博開催 -1970 年 大阪万博-**

1970 年に大阪・千里丘陵で万博が開催された。日本が高度経済成長を成し遂げて先進国の仲間入りを果たしたことを世界に示す機会であったが、万博史上においては、日本で初めての万博であるだけでなく、アジア初の万博であり、欧米以外で初めての万博でもあった。

当時としては史上最多の 77 かが参加、入場者数は約 6,400 万人に達した。時勢の変化により無期限延長となった 1940 年紀元 2600 年記念万博の入場券も使うことができ、実際に 3,000 枚余りが使用された。

**80. 参加国政府代表会議報告書 第 1 回 / 日本万国博覧会協会, [昭和 43(1968)年]【D7-4】**

国立国会図書館内限定

1968 年 5 月 27 日～30 日に国立京都国際会館で開催された、1970 年大阪万博の参加国政府代表会議の報告書。会議の議題は多岐にわたり、参加契約書に記載されている「損傷」の範囲の確認、会期中の外国人観光客の宿泊先の確保と宿泊料金の適正化、パビリオン建設に当たっての日本の請負制度の説明など、各国政府代表との質疑応答が記されている。

81. 日本万国博覧会公式記録 1 / 日本万国博覧会記念協会, 昭和 47(1972)年【D7-32】

国立国会図書館内限定

82. 日本万国博覧会公式記録 2 / 日本万国博覧会記念協会, 昭和 47(1972)年【D7-32】

国立国会図書館内限定

83. 日本万国博覧会公式記録 3 / 日本万国博覧会記念協会, 昭和 47(1972)年【D7-32】

国立国会図書館内限定

1970 年大阪万博の公式記録。3 分冊で、大阪万博の全容が詳細に記されている。日本で初めて開催された万博だったということもあってか、総説の章には「日本万国博の意義」「日本万国博の歴史的背景」という節が設けられ、万博の歴史についての解説や過去の主な万博の一覧も掲載されている。

84. 万博開催をめぐる苦労話——後進国誘致に"共同館方式" / 菅野義丸 ; 東田 (掲載誌 時事解説 2 月 26 日(7288). 時事通信社, 昭和 45(1970)年【Z1-152】)

国立国会図書館内限定

日本万国博覧会協会の菅野義丸副会長のインタビュー記事。鉄道による会場へのアクセスを確保するまでの経緯や、万博史上最多の参加国・地域数を目指し、世界 116 か国を訪問して万博参加の意義を説いたことなどが、1970 年大阪万博への強い思いとともに語られている。

85. 日本万国博ニュース : 総集版 / 日本万国博覧会協会, 昭和 45(1970)年【D7-24】

国立国会図書館内限定

大阪万博直前の 1966 年 6 月から 1970 年 3 月にかけて日本万国博覧会協会が発行していた広報誌の全号をまとめたもの。第 1 号では、大阪万博が BIE から正式に承認を得たこと、会場建設の進捗状況、大阪万博の概要等を解説している。万博の開幕直後に発行された最終号(第 46 号)では、来場者が押し寄せる会場写真に「世界の国々がこんなに身近に感じられる催しがほかにあるだろうか」「世界中の人々とこんなに仲良くすごせるひとときがほかにあるだろうか」とのキャプションを添え、開幕を迎えた喜びを伝えている。



## コラム 4 : 国際博覧会条約の改正

国際博覧会条約は、頻繁な開催による国際博覧会の質の低下を防ぐこと、参加国の負担を軽減することなどを目的としたもので、1928年に成立した。この条約はその後何度か改正されているが、中でも開催頻度に関する規制の在り方は、幾度か改められている。

開催頻度等は、1928年の条約成立当初から国際博覧会の種別ごとに定められており、現在は、1988年改正により設けられた「登録博覧会」と「認定博覧会」という種別区分に基づいている。登録博覧会は、開催期間は6週間以上6か月以内、開催頻度は少なくとも5年間隔である。一方、認定博覧会は、開催期間は3週間以上3か月以内、会場の総面積は25ヘクタール以内、開催頻度は、二つの登録博覧会の中間期に1回だけ開催できることになっている。開催期間や規模に関するこのような規定から、認定博覧会は中小国が開催国になれるチャンスとの指摘もある。

登録博覧会としてこれまでに開催されたのは、2005年愛知万博（愛・地球博）、2010年上海万博（中国）、2015年ミラノ万博（イタリア）、2020年ドバイ万博（アラブ首長国連邦）の4回で、次回が2025年大阪・関西万博である。

### 条約改正の詳細

1988年改正によって「登録博覧会」「認定博覧会」という種別区分となるまでは、国際博覧会は「第一種一般博覧会」「第二種一般博覧会」\*「特別博覧会」に区分されていた。

1966年改正では、開催頻度に関する規制がそれまでより厳しくなり、第一種一般博覧会同士の間隔は、同一国での開催の場合は15年、異なる国での開催となる場合は6年、第二種一般博覧会同士の間隔は4年又は2年（博覧会の性質が同じか否かによって異なる）、第一種一般博覧会と第二種一般博覧会の間隔は2年などとされた。それまでは、世界を三つの地区に分け、異なる地区であれば、第一種一般博覧会同士でも2年間隔、第一種一般博覧会と第二種一般博覧会であれば1年間隔で開催できていたことなどからすると、大幅な規制強化である。

続く1972年改正では、開催間隔に関する規制はさらに厳しくなり、一般博覧会同士の間隔は、同一国での開催の場合は20年、異なる国での開催の場合は10年などとなった。また、条約の対象となる国際博覧会の定義が大きく改められ、国際博覧会は「公衆の教育を主たる目的とする催し」であるとされた。改正前の条文で分野の一つとして例示されていた「植民地の開発」という文言も定義から姿を消している。

その後、1980年代には特別博覧会が多数開催されるようになったが、1988年改正では、国際博覧会の種別を登録博覧会と認定博覧会とに整理し直した上で、開催期間、開催間隔、会場面積等が定められた。登録博覧会の開催頻度は少なくとも5年間隔、認定博覧会は、二つの登録博覧会が開催される中間期に1回だけ開催できることとされている。現時点ではこの1988年のものが最終改正である。

\*第一種は被招請国にその国の陳列館を建設する義務を課すもの、第二種はその義務を課さないもの。

## 1994年 BIE 決議

1994年の博覧会国際事務局（BIE）総会において、将来の万博の方向性を示す決議がなされた。万博は、人類の知識の向上等を目的とし、そのテーマは、今日的な課題に取り組み、自然環境保護に挑戦するものでなければならない、などとする内容である。

この決議の後最初に開催が決定された万博が2005年愛知万博であり、同万博は、BIE決議に盛り込まれた新たな方向性を実現する初めての万博となった。

## 86. 国際博覧会に関する条約の改正 / 牧野 茂（時の法令. 639号 昭和43(1968)年4月. 法令普及会編【Z2-50】）

国立国会図書館内限定

1966年の国際博覧会条約改正についての解説。この改正では開催期間に関する規制が大幅に強化され、それまで世界を3地域に区分し、異なる地域での開催であれば2年間隔で実施できていたのが、異なる国での開催の場合は6年、同一国での開催の場合は15年の間隔が必要となった。展示資料では、これにより従来よりも万博の開催間隔が長くなり、大阪万博の次の万博までの期間が空くため、1970年大阪万博への各国の参加を促す好材料になると予測している。

## 87. 参議院外務委員会審議要録 第129回-第135回国会 / 参議院外交・防衛委員会調査室, 平成11(1999)年【BZ-7-22】

国際博覧会条約の直近の改正である1988年改正の受諾に係る、参議院外務委員会の審議要録。国際博覧会の区分が「登録博覧会」と「認定博覧会」に改められていることなどが記されている。衆参両院とも全会一致で承認され、公布等を経て、平成8年7月19日から日本について発効した。

**88. BIE〔国際博覧会事務局〕総会に出席して / 鶴川 隆之 (新都市. 44 巻 3号 平成 2(1990)年 3月. 都市計画協会【Z3-911】)**

館内／図書館・個人送信

建設省国際花と緑の博覧会推進室職員による第 105 回 BIE 総会 (1989 年) のレポート。総会では、万博の開催頻度や財政状況が議題に上っているほか、開会前に出席国が資料やノベルティーを配り合う「ノベルティー合戦」や、2000 年の万博招致を目指すカナダの積極的なロビー活動の様子などが記されている。

**1970 年 大阪万博**

**89. 日本万国博覧会 : 公式ガイド / 日本万国博覧会協会, 昭和 45(1970)年【D7-12】**

国立国会図書館内限定

**90. Expo '70 official guide / The Japan Association for the 1970 World Exposition, [1970]【D7-7】**

**91. Guide officiel de l'Expo 70 / Association japonaise pour l'Exposition universelle de 1970, [1970]【D7-6】**

1970 年大阪万博の公式ガイドブック。冒頭に皇太子殿下の御挨拶、その後、会場図、パビリオン・展示内容・催物の紹介、万博の歴史、近畿地方の観光情報、万博用語集などが掲載され、巻末には日本万国博覧会協会役職員名簿が付されている。7 か国語の簡単な挨拶も載っており、世界中から集まる来場者に対するホスピタリティが意識されていることが分かる。

**92. 毎日グラフ. 23 巻 14 号 昭和 45(1970)年 4 月. 毎日新聞社【Z23-6】**

**93. 毎日グラフ. 23 巻 15 号 昭和 45(1970)年 4 月. 毎日新聞社【Z23-6】**

大阪万博の盛況ぶりが分かる資料。予想入場者数を下回った日でも大変な混雑ぶりで、雪の中で行列をなす来場者の写真に「エキスポ見物は 忍の一字」とのキャプションが付されている。強風で飾りに不具合が生じたパビリオンの補強の様子、会場内のゴミ箱のポヤを消火する様子など、開幕から 1 か月で生じたハプニングの写真も掲載されている。なお、前号の 23 巻 14 号は全ページカラーで、「日本万国博覧会開く」と題した増刊号となっている。

**94. 国際博覧会歴史事典 / 平野繁臣 著. 内山工房, 平成 11(1999)年【D7-G26】**

博覧会の起源と歩み、日本と国際博覧会の関わりの歴史などを時系列に沿って記述

した資料。各万博開催当時の国際情勢を踏まえつつエピソードを交えて解説しているほか、巻末には国際博覧会年表が収録されている。一般博覧会だけでなく特別博覧会もカバーしており、日本で開催された1975年沖縄海洋博、1985年つくば科学博、1990年大阪花と緑の博覧会も取り上げられている。著者は岡本敏子（岡本太郎のパートナー）の弟。

## 95. Japan World Exposition, Osaka, 1970 : Official Report. Supp / Japan Association for the 1970 World Exposition, [197-] 【D7-28】

1970年大阪万博の公式記録（英語版）の付録。付録は4分冊となっており、展示資料である第4巻には、建造物や風景の記録が収録されている。会場となった千里丘陵の1965年10月から1970年3月にかけての空撮写真からは、会場建設が徐々に進んでいったことが見て取れる。そのほか、各国パビリオンの断面図、会場内のフェンスやガードレールの設置図面、水道管の敷設図面、植込みの図面と花の種類、建設工事の工程表等、施設・設備の図面が多数収められている。展示箇所はお祭り広場で、太陽の塔がお祭り広場の屋根を突き抜けてそびえ立っているのがよく分かる。

## 96. 太陽の塔 = TOWER OF THE SUN / 平野暁臣. 小学館クリエイティブ, 平成30(2018)年 【K111-L151】

太陽の塔を全編にわたって取り上げた資料。新聞・雑誌での岡本太郎自身の発言のほか、森見登美彦氏（作家）、千葉一彦氏（大阪万博テーマ館サブプロデューサー）ら著名人の手になる文章も掲載されている。太陽の塔の創作過程で、樹々をモチーフにした初期のデッサン図から、太陽の塔の姿に徐々に近付いていく様子が分かる。著者は岡本太郎記念館の館長で、岡本敏子（岡本太郎のパートナー）の甥。

## 97. 万博の展望と岡本太郎の造形 / 岡本太郎（近代建築. 24巻5号 昭和45(1970)年5月. 近代建築社【Z11-336】）

国立国会図書館内限定

岡本太郎が万博や太陽の塔のデザイン意図について語っているインタビュー記事。万博は、開催前後の人間像が大きく変わるほどの影響力を持つべきであること、太陽の塔は「人間像」でもあり「人間を超えた神」でもあり「人間そのもの」でもあることなどが述べられている。また、万博は建築の実験の場や単なる見本市ではなく、「人間の集まる空間」であるべきで、「人間の精神を開く」ことが大事という考えも示されている。

## ・ 太陽の塔と EXPO タワー

大阪府吹田市の万博記念公園にある太陽の塔は、芸術家・岡本太郎のデザインにより、1970 年大阪万博のテーマ館の一部をなすものとして建てられた。現在、内部は一般公開されている。

一方、大阪万博のシンボルタワーだったエキスポタワー（右写真参照）は、万博終了後、展望塔として一般公開されていたが、その後閉鎖され、2003 年までに解体・撤去されている。

## 98. 万国博美術展総目録：調和の発見 / 日本万国博覧会協会万国博美術館、昭和 45(1970)年頃【K3-E74】

大阪万博の会場内に建設された万国博美術館の展示品総目録。5 分冊で、各出展品に日英仏 3 か国語の解説が付されている。アジア地域を中心としつつ、世界各国の作品を展示していたことが分かる。日本国内からは、武装の埴輪、鳥獣人物戯画、如拙「瓢鮎図」、俵屋宗達「風神雷神図」など、国宝を含む多数の作品が出展された。

## ・ 万国博美術館

1970 年大阪万博では、会場内に万国博美術館が建設された。4 階建てで、国内及び 40 か国以上から借用した美術品 700 点余りが展示された。時代順に、①創造のあけぼの、②東西の交流、③聖なる造形、④自由への歩み、⑤現代の躍動、という構成の下、東西美術の歴史の流れを辿るような形で展示され、会期中に約 177 万人の入館者数を記録した。

万博の閉幕後、建物は国立国際美術館ととして使用されたが（1977 年開館）、同美術館はその後、老朽化などを理由に 2004 年に大阪・中之島に新築・移転している。

## 22 年ぶりの万博 -1992 年 セベリア万博-

一般博覧会としては、1970 年大阪万博から 22 年ぶりに開催された万博。コロンブスの新大陸「発見」500 年を記念して開催されたもので、テーマは「発見の時代」。万博史上初めて参加国・地域が 100 を超えた。

なお、1970 年大阪万博から 1992 年セベリア万博の間には一般博覧会は一度も開かれなかったが、特別博覧会は数多く開催されており、日本でも 1985 年につくば科学万博、1990 年に大阪花の万博が開かれている。

## 99. HOT DATA 一九九二年セベリア万国博覧会 / 山中由吉 (月刊アドバタイジング, 37巻7号 平成4(1992)年7月, 電通【Z4-351】)

館内／図書館・個人送信

1992年セベリア万博の概要を紹介した資料。同万博は大阪万博から22年ぶりに開催された一般博覧会である。世界最大級の白木の木造建築であった日本館(設計: 安藤忠雄氏)を始め、各国の個性的な素材・デザインのパビリオンの写真が掲載されている。

## 100. スペイン街道: 歴史と文化の旅 セベリア万博～バルセロナ・オリンピック / 中央公論社, 平成4(1992)年【GG575-E52】

セベリア万博日本館総合プロデューサーの堺屋太一と日本館設計者の安藤忠雄氏の寄稿文が掲載されている資料。堺屋太一は、セベリア万博では、日本文化の良い点だけを世界にアピールするのではなく、「生なりの文化」をコンセプトとし、日本の本当の文化を伝えることを目的としたと語っている。安藤忠雄氏はこれを受ける形で、「生なりの文化」を表現するために、木造建築にシックい壁といった、素材を生かした伝統的な日本建築を志向しつつ、材料・技術・工具・人材はヨーロッパやアメリカから集め、指揮は日本人が担当することで、世界中の技術・人の力を結集して完成させたとしている。

### 万博の意義の問い直し -2000年 ハノーバー万博-

2000年ハノーバー万博は、「人間・自然・技術」をテーマに掲げ、登録博覧会としてはドイツで初めて開催された万博だったが(前身の一般博覧会を含めても初開催)、入場者数が当初の目標を大幅に下回り、巨額の赤字が発生した。そのため、世界中どこにいても即座に情報が手に入るようになった現代において、半年にわたって会場に人を集める万博を開催することの意義が、改めて問われるきっかけともなった。その一方で、イベントとしては「失敗」したが、万博を契機としたインフラ整備等、長期的な視点では一定の成果を残したとする評価もある。

## 101. 国際博覧会と日本 / 小原誠, 日本貿易振興機構展示事業部, [平成17(2005)年]【D7-H54】

国際博覧会の始まり、万博への日本の参加、各万博と日本館の概要等を概説している資料。第IV章では万博の今日的な意義について記しており、開催国にとって、万博は地域開発やインフラ整備と不可分であることから、今後アジア、中欧、中南米

の「経済中進諸国」による開催や参加が増加すると予測している。また、直近に開催されたハノーバー万博については章を設けて詳しく触れており、同万博の概要、評価のほか、坂茂氏が建築した日本館が、デザイン・工法と予算の兼ね合い、建築許可取得やその後の仕様変更など、様々な困難を乗り越えて完成に至ったことが分かる。

## 102.ハノーバー国際博覧会（新建築. 75 巻 9 号 平成 12(2000)年 8 月. 新建築社【Z11-343】）

国立国会図書館内限定

ハノーバー万博では、1992 年の国連環境開発会議（地球サミット）で打ち出された「持続可能な開発」という理念を意識した「人間・自然・技術」というテーマが掲げられた。坂茂氏が設計した日本館は、このテーマを踏まえ、会期後にリユース・リサイクルできるよう紙管と木材で構築されたもので、横向きの風にも耐えられるよう曲線を用いた柔らかな外観が特徴的な建物であった。展示資料には、光が差し込む明るく開放的な建物内部の写真や、建築工程の写真が掲載されている。

## 103.検証と展望--「淡路花博」と「ハノーバー万博」が示すもの（レジャー産業資料. 34 巻 7 号 平成 13(2001)年 7 月. 総合ユニコム【Z4-218】）

2000 年の淡路花博（BIE の定める国際博覧会ではなく園芸博覧会に当たる）と 2000 年のハノーバー万博を比較した記事。ハノーバー万博で多額の赤字が生じた原因として、①「人間・自然・技術」というテーマが抽象的で訴求力に乏しかったこと、②ハノーバー周辺に観光地が少なかったこと、③インターネットが普及した現代におけるリアル空間での展示がどうあるべきかを示せなかったこと、④広報不足などの運営面での問題の 4 点を挙げ、目標入場者数の設定自体にも問題があったとしている。その一方で、会場での催し等は好評だったことに着目し、IT 時代におけるイベントの在り方を示したとも評している。

## 104.国際博覧会の経済効果に関する計量分析：開催実績比較・地域開発の視点から / 小林甲一. 平成 13-15(2001-2003)年【Y151-H13430018】

入場者数が目標の半分以下にとどまり、失敗と評されることもあるハノーバー万博に対し、一定の評価を与えている研究資料（科学研究費補助金研究成果報告書）。産業見本市を経済振興の柱に据え、万博開催によって見本市会場拡充や交通インフラ整備を実現させるという都市戦略の観点に立てば、ハノーバー万博は十分な経済効果をもたらしたと分析している。

## 21世紀の万博 -2005年 愛知万博（愛・地球博）

開催決定は1997年で、博覧会国際事務局（BIE）の1994年決議後に開催が決定した初めての万博である\*。テーマは「自然の叡智」。いわゆる「国威発揚型」「開発型」の万博から「理念提唱型」の万博への移行の分岐点となったとも評されている。市民パビリオンの設置、EXPO エコマネーの導入など新たな試みを実施し、最終来場者数は約2,200万人を記録した。会期中に行われた第137回BIE総会では、愛知万博が良好に推移しており、博覧会へのポジティブなイメージを一般の人々に与えていること等を評価する「祝意と賛辞」宣言が出された。万博の理念継承事業に力を入れたこともこの万博の特徴の一つである。その一方で、開催前に、希少野生動物種に指定されていたオオタカの営巣が会場予定地で確認され、地元で反対運動が行われたりもした。

\*1994年決議では、万博は、人類の知識の向上等を目的とし、そのテーマは今日的な課題に取り組み、自然環境保護に挑戦するものでなければならないなどとされている。

### 105.愛知万博問題調査報告書 / 名古屋弁護士会公害対策・環境保全委員会、平成8(1996)年【D7-M40】

愛知万博の会場候補地となっていた「海上の森」(かいしよのもり)の自然破壊を懸念し、問題点を指摘した報告書。「海上の森」には、当時のレッドデータブックに危急種として記載されていたシデコブシやギフチョウ、希少種として記載されていたハチクマやハイタカなどの動植物の生息が確認されていた。展示資料では、万博の実施計画が不明確で自然環境への影響が見通せず、会場候補地の湿地帯と生態系は保全の必要性が高いことを訴えるとともに、住民に対する情報開示の不十分さ、環境アセスメントの重要性に対する認識不足等を批判している。

### 106.あいちホスピタリティ：愛知万博一市町村一国フレンドシップ事業の記録：Expo 2005 Aichi / 愛知県、平成18(2006)年【D7-H94】

愛知万博における「一市町村一国フレンドシップ事業」の記録。同万博では、愛知県内の市町村が万博参加国のホームシティ・ホームタウンとなり、ゲスト国の受入れやナショナルデーの応援等を行う「一市町村一国フレンドシップ事業」が展開された。ゲスト国のアテンダントの鶺鴒への招待、柔道交流フェスタ、ゲスト国の家庭料理教室、ゲスト国の国立舞踊団の公演等、市民が万博を身近に感じ、国際交流を楽しむ機会となったことがうかがわれる。



### **107.市民参加型社会とは：愛知万博計画過程と公共圏の再創造 / 町村敬志, 吉見俊哉 編著. 有斐閣, 平成 17(2005)年【D7-H70】**

愛知万博を市民参加という切り口から論じた論集。会場候補地の自然環境の保全を求める市民運動等から、どのようにして市民参加の枠組みが整えられ、実際にどのような市民参加がなされていったのか、22人の著者がそれぞれの視点から振り返っている。万博運営サイドに対する批判にとどまらず、市民側の限界にも目が向けられるなど、愛知万博における市民参加の詳細な記録であると同時に、万博開催という一大事業における市民参加の意義、難しさ、展望等を考察する内容ともなっている。

### **108.愛・地球博 185 days：保存版：報道写真集 / 中日新聞社 編. 中日新聞社, 平成 17(2005)年【D7-H87】**

愛知万博(愛・地球博)の会期 185 日間を、地元紙である中日新聞の報道写真で振り返った資料。各日の入場者数・天気とその日の会場の様子、開会式等での著名人のパフォーマンス、参加国が文化や習慣を紹介するナショナルデー、地方自治体による地域にちなんだ催し、要人の来場など、同万博の様々な場面を捉えた写真が採録されている。

### **109.未来へつながる愛・地球博：愛・地球博基本理念継承活動の軌跡 / 地球産業文化研究所, 平成 22(2010)年【D7-J82】**

愛知万博の理念を継承する活動を、開催 5 年後の 2010 年に概観した資料。会期中に行われた、新エネルギー実証実験、環境に配慮した行動をとった際に付与された通貨「EXPO エコマネー」、一市町村一国防レンドシップ事業(展示資料 106)による国際交流等が発展・継続されていることのほか、会場跡地の整備・活用、公式キャラクター「モリゾー」「キッコロ」のイベント参加やグッズ販売などが取り上げられている。

### **万博の非欧米圏への拡大 -2010 年 上海万博・2020 年 ドバイ万博-**

2010 年上海万博のテーマは「より良い都市、より良い生活」。入場者数は約 7,300 万人で、それまでで最多だった 1970 年大阪万博を上回った。

2015 年ミラノ万博を挟んで次に開催されたのが 2020 年ドバイ万博である。テーマは「心をつなぎ、未来をつくる」。当初は 2020 年から 2021 年にかけての開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で約 1 年後ろ倒しとなり、2021 年から 2022 年にかけての開催となった。

このように、近年では、欧米圏以外でも万博が相次いで開催されている。一般博覧会(登録博覧会の前身)として欧米圏以外で初めて開催されたのは 1970 年大阪万博だが、その後、登録博覧会として、2005 年愛知万博、2010 年上海万博、2020 年ド

バイ万博が、更に、特別博覧会（認定博覧会の前身）にも目を向けると、1975年沖縄国際海洋博覧会、1985年つくば科学博、認定博覧会として1993年大田万博（韓国）、2012年麗水万博（韓国）、2017年アスタナ万博（カザフスタン）が開催されている。

### **110.The World Expo 2010 Shanghai : China's 159-year of endeavor 1st ed / Foreign Languages Press, 2010 【D7-P3】**

2010年上海万博の開幕前に出版された資料。前半では、1851年ロンドン万博から2010年上海万博までの159年間にわたる万博と中国の関わりを、後半では上海万博の概要を解説している。1851年ロンドン万博で、清王朝の官吏だったヘシン卿が水晶宮での開会式に招待されたこと、中国の工芸品を積載して中国から航海してきた商船・耆英（きえい）号が現地の人々を魅了したこと、当時の木版画に中国人の姿が見られることなどが記されており、万博と中国との間に古くから関係があったことが分かる。

### **111.二〇一〇年上海世博会建筑 = Architecture at Expo 2010 Shanghai China / 中国建筑工业出版社 编. 中国建筑工业出版社, 2010 【D7-C16】**

上海万博のパビリオンの写真、概要、図面を収録した資料。万博後にはパビリオンのほとんどが解体されてしまうため、建物の記録と技術を後世に残す目的で発行された。「より良い都市、より良い生活」がテーマだった上海万博では、参加国がそれぞれに最新の建築技術を駆使してテーマに沿ったパビリオンを建設した。日本館は、蚕のまゆのような特徴的な外観から「紫蚕島」（日本語通称：かいこじま）と呼ばれ、太陽光を各層に取り入れたり、雨水をためて冷房に利用したり、建物の外壁に太陽電池を組み込んだ膜を貼るなど、環境に配慮した設計でテーマを体現していた。

### **112.集珍：珍藏纪念邮册：中国2010年上海世博会 = A memorial stamp album for the Expo 2010 Shanghai China / 上海市集邮总公司, [2010] 【DK331-C39】**

2010年上海万博の記念切手を収録したアルバム。代表的な4つのパビリオンの模型が飛び出てくる仕掛け絵本のような作りにもなっている。万博についての簡単な紹介文も掲載されており、万博を、産業・経済の発展の足跡を記録した巻物に例えた記述も見られる。展示箇所に掲載されているのは中国館で、「東方の冠」をコンセプトに、中国の文化と歴史を象徴する建物として設計された。

**113.上海万博とは何だったのか：日本館館長の 184 日間 / 江原規由. 日本僑報社, 平成 23(2011)年【D7-J156】**

2010 年上海万博の日本館館長及び日本政府副代表を務めた江原規由氏が上海万博を振り返った資料。会期中に尖閣諸島近辺で中国船と海上保安庁の巡視船が衝突する事件が発生したが、日本館への来場者数は 540 万人に上った。来館者との心温まる交流、中国当局のセキュリティ体制による運営上の苦勞、日本館を訪れた要人とのやり取りなど、日本館の日常が記されている。

**114.上海万博と中国のゆくえ / 関西日中関係学会, 関東日中関係学会 編. 桜美林大学北東アジア総合研究所, 平成 23(2011)年【GE341-J240】**

中国社会の将来を上海万博から考察した論文集。第 I 部「文化・社会・観光」と第 II 部「経営・経済・環境」の 2 部構成。旅行大国であり、上海万博を機に更なる観光客誘致と観光資源の整備に力を入れている中国の旅行市場の動向を予測する論考、1970 年大阪万博時の日本と 2010 年上海万博時の中国の人口構成の比較や中国企業の特徴から、万博後の中国の経済成長を予測した論考などが採録されている。

**115.2012 여수 세계박람회 = Expo 2012 Yeosu Korea : the living ocean and coast : 공식 기록화보집 / 2012 여수세계박람회 조직위원회 [編]. 2012 여수세계박람회 조직위원회, 2012【D7-K3】**

2012 年に韓国で認定博覧会として開催された麗水(ヨス)万博の公式記録。テーマは「生きている海と沿岸」。日本の展示では、東日本大震災の津波で家族を失った少年が自転車に乗って空を飛び、人間の生命力に感動して復興と再建に向けて希望を取り戻すという内容の映像が上映された。会場内には韓国最大級の規模の水族館が建設され、ベルーガやバイカルアザラシが人気を博したほか、海洋生物館で潜水艦への疑似乗船体験ができた。展示ページは海上ステージ「The Big-O」で、水・光・火・音による特殊効果を織り交ぜたショーが行われたことなどが記されている。

**116.新興国市場開拓事業(相手国の産業政策・制度構築の支援事業(カザフスタン: 2017 年アスタナ国際博覧会出展のための事前調査事業)) 報告書 平成 26 年度 / アサツーディ・ケイ, [平成 27(2015)年]【D7-L47】**

2017 年アスタナ万博(認定博覧会)への出展に当たって行われた事前調査の報告書。中央アジア初の万博である同万博の概要のほか、カザフスタンの基本情報が記載されており、経済動向、産業構造、エネルギー資源、飲食・住インフラ・労働の現況

と今後想定されるニーズ等が記されている。また、アスタナ万博のテーマである「未来のエネルギー」に即した日本館の出展テーマ案が3案挙げられている。

**117.2020 年ドバイ国際博覧会 日本館：設計 電通ライブ(総合プロデューサー) 永山祐子建築設計(デザイナー・アーキテクト) NTT ファシリティーズ(設計統括・意匠設計) Arup(構造・設備・ファサードエンジニアリング)(新建築. 96 巻 11 号 令和 3(2021)年 9 月. 新建築社【Z11-343】)**

中東初の万博であるドバイ万博の日本館を紹介した資料。日本館は本館とレストラン棟で構成され、外壁のデザインには、中東と日本の両文化に共通する幾何学文様を意識して、日本伝統の麻の葉文様の立体格子が採用された。砂漠地帯では貴重な水資源を豊富に有する日本をイメージして、建物の前面には水盤を設けたり、日本で古来好まれてきた白銀比(およそ 1:1.414)に即して二等辺三角形を建物の形状に用いるなど、随所に中東と日本の文化の対比を感じさせる作りとなっている。

**118.水と風を感じる日本館が好評(日経アーキテクチュア. 1202 号 令和 3(2021)年 10 月. 日経 BP【Z16-943】)**

ドバイ万博のテーマパビリオン群や日本館の写真が掲載されている特集記事。日本館については、建築デザインの意図、コロナ禍によって生じた苦勞、建築上の工夫等を紹介しているほか、展示の構成にも簡単に触れている。

**119.韓国麗水国際博覧会見聞記 / 中嶋 正之(映像情報メディア学会誌. 66 巻 10 号 平成 24(2012)年 10 月. 映像情報メディア学会【Z16-307】)**

麗水万博の見聞記。著者は、万博における映像展示に関し多くの著作を著している研究者。インターネットで入場チケットが簡単に入手できること、公式ホームページや YouTube の情報が充実していること、観客が自分のスマートフォンを使って映像展示に参加できることなどを挙げ、韓国の IT 技術が大いに発揮された万博だったと評している。展示内容については、3D 映像はもはや当たり前で、複数画面からなるマルチスクリーンや、円形ホールの円周全てに映像を投影するサークルビジョンなど、投影の仕方の工夫が目立ったことが記されている。

## 万博の展示形態の変容 -2015年 ミラノ万博-

ミラノ万博のテーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを」で、日本は、木をふんだんに用いた日本館において、日本の食や食文化を紹介する展示を行った。光や映像を用いたこの展示は、待ち時間が10時間に及ぶほどの好評を博し、展示デザイン部門で金賞を受賞した。

第二次世界大戦以前の万博では実物の展示が中心だったが、戦後は映像メディアの活用が進み、1970年大阪万博では映像による展示が大きな注目を集めた。21世紀に入ると、単に映像を上映するだけにとどまらない展示が増え、2005年愛知万博では、入口で撮影した来場者の顔写真をコンピュータグラフィックス(CG)化し、それを登場人物にしたドラマを上映するパビリオンなども登場した。更に、認定博覧会である2012年麗水万博の頃から、来場者が自身のスマートフォンを使って参加するインタラクティブ(双方向)型の展示が行われるようになってきている。

### 120.世界の「食」を学びにミラノ万博へ / いとう みつこ (食生活. 109巻 11号 平成27(2015)年11月. カザン【Z6-308】)

2015年ミラノ万博の見聞記。「食」をテーマにした初めての万博で、世界各国の食材の展示、試飲・試食コーナー、カフェ・レストランでの異国の食文化体験等が紹介されている。また、国際連合が出展したパビリオン・ゼロにおける、子供の飢餓や食糧廃棄といった世界の食糧問題に関する展示にも言及している。日本館は、稲穂の映像が投影され田んぼに足を踏み入れた感覚を味わえたり、来場者が食卓を囲んで卓上の画面を箸で操作すると懐石料理の映像が流れてくるなど、五感に訴える展示が好評を博した。

### 121.二〇一五年ミラノ国際博覧会・日本館展示コンセプトブック / 2015年 ミラノ国際博覧会・日本館, [平成27(2015)年]【D7-L60】

ミラノ万博の日本館における展示をまとめた資料。展示の流れに沿って、配置、構成、展示意図等が豊富な写真とともに紹介されている。紫舟氏(書家・アーティスト)の作品、チームラボによるプロジェクションマッピング、実物大の食品サンプル、シアターでの来場者の好みに合わせた料理の疑似提供など、技術も活用して多様な演出がなされていたことが分かる。

## 122.特集 ミラノ万博 「その後」も楽しめる、展示と連携した画期的な日本館アプリ / 倉田 菜生子 (時評. 57 巻 7 号 平成 27(2015)年 7 月. 時評社【Z1-117】)

ミラノ万博の日本館公式アプリを紹介した記事。アプリでは、入館までの待ち時間に和食に関するクイズやレシピを楽しんだり、展示序盤の「DIVERSITY 情報の滝」のエリアでは、プロジェクションマッピングで滝から様々な画像が流れる中から来場者が触れたものを取り込み、その写真や解説を見ることができた。さらに、展示最後のシアターでは、それまでに来場者が興味を持った展示コンテンツに応じてお勧めの料理コースを表示するなど、来場者を飽きさせないような工夫が凝らされていた。

### 来る 2025 年 -2025 年 大阪・関西万博-

2018 年 11 月、大阪が 2025 年の万博開催地に決定した。正式名称は「2025 年日本国際博覧会」(略称:大阪・関西万博)、テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、会場は大阪ベイエリアの夢洲(ゆめしま)である。日本での開催は、登録博覧会(前身の一般博覧会を含む)としては、1970 年大阪万博、2005 年愛知万博に続く 3 回目となる。

国立国会図書館関西館の所在する関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)においても、大阪・関西万博に合わせて開催するイベント「(仮称)けいはんな万博」の開催準備会が発足するなど、2025 年に向けた機運が高まりつつある。

## 123.Expo 2025 大阪・関西万博誘致活動の軌跡 / 2025 日本万国博覧会誘致委員会, [令和元(2019)年]【D7-M3】

2025 年大阪・関西万博の招致活動の全体像をまとめた資料。全体は 2 部構成で、第 1 部では、万博開催構想の打ち上げから開催国決定、万博の主権者となる 2025 年日本国際博覧会協会の設立までを時系列で記述、第 2 部では、構想の策定に至る検討過程、広報・啓発活動、市民活動等を記述している。巻末には参考資料として、各種名簿や事業実施日時等が掲載されている。

## 124.ひとめでわかる! 2025 年大阪・関西万博 (経団連.70 巻 4 号 令和 4(2022)年 4 月. 日本経済団体連合会【Z3-170】)

2025 年大阪・関西万博の概要紹介及び関係者・有識者らの寄稿文による特集記事。万博のプロデューサーを務める者の紹介などのほか、国際博覧会担当大臣、大阪府

知事、2025 年日本国際博覧会協会の理事等 9 人が、それぞれの立場から同万博への期待や抱負を語っている。

## **125.2025 大阪万博誘致若者 100 の提言書 / [2025 大阪万博誘致若者 100 の提言書編集委員会], 平成 28(2016)年頃【Y93-L10831】**

2025 年国際博覧会検討会に向けて提起された、関西圏の大学生らを中心とするプロジェクトによる提言書。「人類とは何かを問う万博」「生とは何かを問う万博」「真の豊かさを問う万博」など 5 つのテーマの下、抽象的なものから具体的な事業まで、100 の提言が盛り込まれている。

## **126.大阪万博の戦後史 : EXPO'70 から 2025 年万博へ / 橋爪紳也. 創元社, 令和 2(2020)年【GC163-M18】**

第二次世界大戦終戦以降の大阪の歴史を記述した資料。1970 年大阪万博以前の時代にページ数の 3 分の 1 を割いており、万博開催までに大阪がどのような歩みを辿り、大阪にとって万博がどのような意味合いを持っていたのかが感じられる。また、万博のレガシーという観点からその後の大阪における大規模イベントを取り上げ、さらに 2025 年大阪・関西万博開催までの流れを記しているため、戦後の大阪史を万博との関わりの中で通覧することができる。

---

### **第 3 章の参照・参考文献**

- ・ 岩田泰「国際博覧会の歴史に博覧会国際事務局〈BIE〉が果たした役割」佐野真由子ほか著『万博学：万国博覧会という、世界を把握する方法』思文閣出版, 2020, pp.131-146. 【D7-M30】
- ・ 岡田朋之「2015 年ミラノ万博と 21 世紀の国際博覧会：『まなざし』の近代的空間から『味わい、感じる』イベントへ(食の風俗)」『現代風俗学研究』17 号, 2017, pp.33-42. 【Z71-K768】
- ・ 岡田朋之「第 233 回産業セミナー ポスト・モバイル社会における博覧会とツーリズム：スマート、VR・AR の時代におけるメガイベントの意義とは?」『セミナー年報』2019, pp.21-33. 【Z41-1644】
- ・ 佐野真由子「序説・万国博覧会という、世界を把握する方法」佐野真由子編, 佐野真由子ほか著『万博学：万国博覧会という、世界を把握する方法』思文閣出版, 2020, pp.3-43. 【D7-M30】

- ・ 重富公生「2010 年上海万国博覧会をめぐる--万国博史上における位置づけを中心に」『国民経済雑誌』202 巻 6 号, 2010.12, pp.15-26. 【Z3-260】
- ・ 山田宗範「国際博覧会の変容--愛・地球博の成果と評価」『日本ゴム協会誌』 80 巻 3 号, 2007.3, pp.112-118. 【Z17-125】
- ・ 「沿革」国立国際美術館ウェブサイト <<https://www.nmao.go.jp/about/history/>>
- ・ 「万国博美術館」東京文化財研究所ウェブサイト <<https://www.tobunken.go.jp/materials/nenshi/6235.html>>
- ・ 「万国博美術館、随所に進取の構造（古今東西万博考）」『日本経済新聞』2019.11.19.  
<<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO52309640Y9A111C1960E00/>>
- ・ “World Expo”. BIE. <<https://www.bie-paris.org/site/en/all-world-expos>>  
(URL の最終アクセス日は全て 2023 年 1 月 11 日)



## 第4章 万博研究

第4章では視点を変え、国内における万博研究の歩みを概観し、研究書の一部を展示する。

日本における博覧会研究は、一般に、1980年代から本格化したとされている。その先駆けとなったのは京都大学人文科学研究所の吉田光邦で、科学技術史の視点から国内外の博覧会を読み解き、特にその博覧会通史は、以後の万博研究の基礎となった。1980年代には、同研究所による共同研究の成果も複数刊行されている。

1990年代以降では、万博を帝国主義、消費社会、大衆的娯楽といった観点から論じた吉見俊哉氏や、国内博覧会に関する清川雪彦氏、國雄行氏、伊藤真美子氏などによる研究がある。また、植民地展示を扱った論考のほか、美術史、音楽史等の各分野でも研究が蓄積されている。更に、近年では、多分野の研究者が参加する万博学会研究会（代表：佐野真由子氏）の成果が刊行されるなど、万博研究が活発化している。

### 127. 図説万国博覧会史：1851-1942 / 吉田光邦 編. 思文閣出版, 昭和60(1985)年【D7-66】

国立国会図書館内限定

科学技術史学者の吉田光邦(1921-1991)を中心に、多分野の研究者が参加した万国博覧会研究会による図説集。おおむね1940年代までの万博について、「会場鳥瞰(ちょうかん)」「会場平面図」「回遊する人々」といったテーマ別に、万博が開催されたその時々の様子を伝える絵図を豊富に掲載している。日本館を通して演出された日本的イメージや幻の万博など、日本についても取り上げられている。

### 128. 博覧会の政治学：まなざしの近代(中公新書) / 吉見俊哉 著. 中央公論社, 平成4(1992)年【D7-E89】

博覧会を社会史の観点から考察した資料。序章では、同書は「博覧会の歴史を何らかの客観的事実の発展史としてではなく、博覧会に集まってきた人々の社会的経験の歴史として捉え返すこと」を目指すものであると記されている。博覧会と産業技術の関係を踏まえつつ、博覧会を、①帝国主義のディスプレイ装置、②消費文化の広告装置、③大衆娯楽の見世物として捉え、万博や国内博覧会によって大衆の感覚や欲望がどのように動員・再編されたかを論じている。

**129.明治期の万国博覧会日本館に関する研究 / 三島雅博 [著]. 神戸大学,  
平成 5(1993)年【UT51-93-R367】**

インターネット公開

明治期の万博における日本館をテーマとした博士論文。日本館の形態、設計の参考となった様式や建築等から、当時の日本人にとっての「日本らしさ」を追究している。1893年シカゴ万博の日本館（鳳凰館）建設の意図、事業に関わった岡倉天心の思想が日本館の形態に与えた影響、1900年パリ万博の日本館建設に至る過程と日本館の形態への林忠正（美術商）の関与等について分析が行われている。

**130.博覧会の時代：明治政府の博覧会政策 / 國雄行 著. 岩田書院, 平成  
17(2005)年【D7-H68】**

明治政府の博覧会政策を総合的な視点から研究した資料。1887年から1903年までに5回開催された内国勸業博覧会を分析対象としている。近代日本の機械化の特徴、内国勸業博覧会の「内国」の意味、博覧会に期待された効果と事業の終焉（しゅうえん）等について論じている。

**131.日本の経済発展と技術普及 / 清川雪彦 [著] 一橋大学, 平成 8(1996)  
年【UT51-96-B409】**

国立国会図書館内限定

1880年代後半以降の日本の経済発展を、技術普及との関連で分析した博士論文。日本がアジア諸国に比べ顕著な経済発展を果たした理由は、①活発な技術普及や技術導入、②農業をはじめとする在来産業部門の発展、③両者をつなぐ技術普及にあったとして、技術普及の意義や役割、技術普及の進展過程等が分析されている。分析の一環として博覧会と共進会\*を取り上げ、技術情報の普及促進におけるそれらの意義を明らかにしている。

\*共進会は明治政府の勸業政策として内国勸業博覧会と並んで催されていたもので、1879年の製茶共進会や生糸繭（まゆ）共進会が始まりとされている。優秀な農工産物を一般から出品させ、生産技術の交流、向上が図られた。

**132.世紀の祭典万国博覧会の美術：パリ・ウィーン・シカゴ万博に見る東  
西の名品 / 東京国立博物館ほか 編. NHK, 平成 16(2004)年頃【K16-  
H441】**

2005年愛知万博を記念して東京国立博物館等で開催された展覧会の図録。第I部「万国博覧会と日本工芸」では、1867年パリ万博等で日本が出品した工芸作品により近代日本工芸の博覧会を通じた海外伝播（でんぱ）が、第II部「万国博覧会の中

の西洋美術」では、1855年から1900年まで計5回のパリ万博に出品された西洋絵画、彫刻等が、豊富なカラー図版と共に紹介されている。

### **133.万博学：万国博覧会という、世界を把握する方法 / 佐野真由子 編、佐野真由子ほか [執筆]. 思文閣出版, 令和 2(2020)年【D7-M30】**

万博を対象にした共同研究の成果をまとめた資料。歴史学、博物館学、建築学など多様な分野の28人による32本の論考が収録されている。共同研究の目的は「万国博覧会の様々な側面に着眼し、掘り下げたその先に、19世紀から今日に至る人類世界の歩みを捉えること」とされており、内容は、万博史の新たな時代区分の提示、BIE や国際制度から見た万博、1970年大阪万博の多面的考察等多岐にわたっている。

---

## **第4章の参照・参考文献**

- ・ 伊藤真実子「博覧会研究の動向について--博覧会研究の現在とその意義」『史学雑誌』117巻11号, 2008.11, pp.1981-1989. 【Z8-321】
- ・ 小林丈広「学界動向 近年の博覧会研究をめぐって」『ヒストリア』202号, 2006.11, pp.188-192 【Z8-95】
- ・ 五月女賢司「博覧会における異文化接触と娯楽性についての研究動向」『観光学』25号, 2021.9, pp.13-24. 【Z72-B98】
- ・ 竹内竜巳「博覧会研究史の整理と動向」『國學院大學博物館學紀要』38巻, 2013年度, pp.147-158. 【Z21-271】
- ・ 竹内竜巳「博士 吉田光邦の博覧会意識とその評価」『國學院大學博物館學紀要』39巻, 2014年度, pp.195-209. 【Z21-271】

国立国会図書館関西館



**会期**：令和5年1月19日(木)～2月14日(火)※日曜・祝日を除く

**会場**：国立国会図書館関西館大会議室(地下1階)

**発行**：国立国会図書館

**編集**：国立国会図書館関西館

資料展示班